

刻翻

漢史一斑

小永井八郎編

一

T1A1

25

(K071)

翻 刻

文部省刊行

漢史一斑

大阪書林 三如堂翻刻

漢史一斑題言

漢史一斑ハ童蒙ニ課スル爲ニ編スル所ナリ、上
三皇ヨリ下清代ニ至ル、其言極テ節略セリ、故ニ
或ハ其事理ノ條貫ヲ了シ得サルコト有ラン、顧
フニ彼ノ史浩繁、文字モ亦童蒙ノ辨シ易キ所ニ
非ス、唯其興亡治忽ニ關ル所以、大要ヲ撮ミ之
ヲ示スノミ、即一斑ト命クル所以ナリ、若其全體
ヲ求メント欲セハ、自原史アリ、何ソ此書ヲ待タ
ンヤ、況ヤ明末ヨリ清ニ至リ、世未正史アラズ、漫
ニ私記野乘ニ原キ之ヲ記ス、亦所謂斷爛朝報タ

ルコトヨ免レス、讀ム者其淺短ヲ咲フコト勿ル

明治九年二月

小永井八郎識

漢史一斑目錄

第一卷

三皇紀

五帝紀

夏紀

商紀

周紀

秦紀

西漢紀

東漢紀

後漢紀蜀

第二卷

晉紀

東晉紀

宋紀

齊紀

梁紀

陳紀

隋紀

唐紀

後梁紀

後唐紀

後晉紀

後漢紀

後周紀

第三卷

宋紀

元紀

明紀

第四卷

明紀
清紀

漢史一斑 第一卷

小永井八郎 編

三皇紀

太昊伏羲氏、八卦ヲ畫ス、書契ヲ作テ、結繩ノ政ニ代ス、炎帝神農氏、五穀ヲ藝エ、廛市ヲ作り、鑿藥ヲ製ス、黃帝有熊氏、文字宮室衣裳器用貨幣ヲ制作ス、

五帝紀

少昊金天氏、名ハ摯、黃帝ノ子玄囂ナリ、顓頊高陽氏、玄囂ノ弟、九子玄囂ナリ、州ヲ制ス、雍、荆、豫、梁、冀、青、兗、徐、揚ナリ、歷象ヲ改メ、建寅月ヲ歷

元トス、帝魯高辛氏少昊ノ孫、帝堯陶唐氏名ハ、歴放勳、
象ヲ治メ、民ニ時ヲ授ク、洪水アリ、鯀ニ命シテ治
メシム、九載ニシテ功ナシ、舜ヲ登庸ス、舜父頑ニ
母嚚ニ弟象驕レリ、舜孝悌ノ道ヲ盡シテ篤謹ナ
リ、帝即其位ヲ禪ル、舜四凶ノ族驩兜共工三苗ヲ流ス、
禹ニ命シテ水ヲ治メシム、禹水ヲ治メ九州ヲ分
テ十二州トス、冀兗青徐荆揚豫梁雍幽并營後稷ヲシテ民ニ稼
穡ヲ教ヘ契ヲ司徒トナシテ人倫ヲ教ヘシム、又
五刑ヲ制ス、帝舜有虞氏黃帝ハ、堯ノ禪ヲ受ク
帝ノ子商均不肖ナリ、是ニ於テ禹ニ命シ政ヲ攝

セシム、

夏紀姒姒安邑ニ都ス

大禹舜ノ禪ヲ受ク、載ヲ改テ歲ト曰フ、元歲諸侯ヲ
塗山ニ會ス、啓禹ノ子有扈氏法ニ順ハス、啓與
ニ甘泉ノ野ニ戰ス、太康啟ノ子十九歲太康盤
游度ナシ、有窮ノ后羿河ニ距キテ仲康ヲ立シ、相
仲康ノ子八歲、羿民事ヲ修メス、寒浞ヲ用テ相トス
浞羿ヲ弑シ之ニ代ル、二十八歲寒浞王ヲ帝丘
ニ殺ス、后緡ハ有仍國君ノ女ナリ、逃テ有仍ニ歸
ル、少康ヲ生ム、少康相ノ子二十三歲少康仍ノ

牧正タリ、寒浞ノ子澆之ヲ求ム、少康虞ニ奔ル、
四十歳夏ノ遺臣靡師ヲ興シテ寒浞ヲ誅シ王ヲ
奉シテ天子ノ位ヲ踐マシメ、澆及豷皆浞子ヲ誅シ、
禹ノ舊蹟ニ復ス、夏道復興ル、後十傳シテ癸ニ至
ル、癸癸ノ子、即桀ナリ 二十二歳、公劉公劉ニ遷ル、初メ
公劉ノ先居稷ノ時ニ部ニ封セラレ、此ニ至リ
公劉桀ヲ避ケテ豳ニ居リ、后稷ノ業ヲ脩ム、周ノ
興ル此ヨリス、 三十三歳、蒙山ヲ伐シ、蒙山ノ有
施氏妹喜ヲ獻ス、王之ヲ嬖ス、瓊室象廊、瑤臺玉床、
肉山脯林、酒池ヲ作ル、 三十七歳、商主湯伊尹ヲ

聘シ、夏主ニ進ム、夏主無道ナリ、尹諫ムルモ聽カ
ス、尹曰ク、君王聽カスハセフル日ナケン、桀笑テ
曰ク、吾天下ヲ有ツ、天ノ日アルカ如シ、日豈亡フ
ル有ンヤ、尹遂ニ湯ニ適ク、湯以テ相トス、四十
二歳、商湯ヲ夏臺ニ囚フ、湯嘗テ出ル、田ス、網ノ三
面ヲ去テ曰ク、左セント欲スル者ハ左セヨ、右セ
ント欲スル者ハ右セヨ、命ヲ用井サル者ハ吾網
ニ入レト、諸侯之ヲ聞テ曰ク、湯ノ德禽獸ニ及フ
ト、皆心ヲ歸ス、桀聞テ疾ミ之ヲ囚フ、既ニシテ之
ヲ釋ス、 五十二歳、諫臣關龍逢ヲ殺ス、

商紀

子姓
都ス

商王成湯 歳ヲ改テ祀ト曰ス、十八祀、王夏禘
ヲ伐テ、之ヲ南巢ニ放シ、天子ノ位ヲ踐ミ、國號ヲ
建テ、商ト曰ス、二十四祀、湯既ニ桀ヲ南巢ニ放
ツ、大旱七年、乃桑林ノ野ニ禱ル、六事ヲ以テ自責
ス、テ曰ク、政節アラサルカ、民ヲ疾マシムルカ、宮
室高キカ、女謁戚ナルカ、苞苴行ハルカ、讒夫昌ン
ナルカ、言未已サルニ、大ニ雨フル、太田湯ノ孫
子、太甲湯ノ典刑ヲ顛覆ス、伊尹之ヲ桐ニ放ス、三
年ニシテ復亳ニ歸ル、後四傳シテ大戊ニ至ル

太戊

雍己

伊陟臣扈ヲ相トシ、湯ノ政ヲ脩ム、九傳

シテ盤庚ニ至ル、盤庚

陽甲

都ヲ殷ニ遷シ、國號

ヲ殷ト改ム、諸侯來朝ス、二傳シテ武丁ニ至ル、

武丁

小乙

武丁帝良弼ヲ賚フト、夢ミ傳説ヲ得タ

リ、立テ相トス、四傳シテ武乙ニ至ル、武乙

庚丁

武乙無道ナリ、革囊ニ血ヲ盛リ、仰テ之ヲ射ル、天

ヲ射ルト曰ス、河渭ニ獵シ、暴雷ニ震死ス、二傳シ

テ帝乙ニ至ル、帝乙

太丁

元祀周公季歷ニ命

シ、侯伯トス、初古公三子太伯仲雍季歷アリ、季歷

ノ子昌聖瑞アリ、太伯仲雍父古公カ季歷ヲ立テ

昌ニ傳、ント欲スルヲ知リ、荆蠻ニ避テ季歷ニ讓ル、七祀周公季歷薨ス、世子昌位ヲ嗣ク、仁ヲ篤クシ、老ヲ敬シ、少ヲ慈ミ、賢ヲ禮ス、紂辛ノ子、紂賦稅ヲ厚シテ、鹿臺ノ錢ヲ實テ、鉅橋ノ粟ヲ盈テ、大ニ樂戲ス、酒池肉林ヲ爲リ、男女僕シテ其間ニ相追フ、百姓怨ミ、諸侯畔ク、乃刑ヲ重クス、炮烙ノ法アリ、十一祀九侯ヲ醢ス、鄂侯爭諫ス、之ヲ脯ス、西伯聞テ歎ス、卽羗里ニ囚フ、既ニシテ之ヲ釋ス、十二祀、虞芮ノ人獄アリ、周ニ如シ、耕者皆畔ヲ讓リ、民俗皆長ニ讓ル、虞芮ノ人慚テ曰ク、吾爭

フ所ハ周人ノ恥ル所ナリト、遂ニ還テ俱ニ讓レリ、十五祀、周ノ西伯呂尚ヲ渭水ニ得テ尊テ尚父トス、二十祀、周ノ西伯昌薨ス、世子發嗣立ス、二十一祀、周ノ西伯發東シテ兵ヲ盟津ニ觀ス、諸侯期セス、テ會スル者八百、皆曰ク、紂ハ伐ツ可シ、王曰ク、天命未可ナラスト、兵ヲ引テ還ル、三十二祀、比干ヲ殺シ、箕子ヲ囚フ、微子去ル、

周紀 姬姓 鎬ニ都ス 後洛ニ遷ル

武王 名ハ發 文 祀ヲ改テ年ト曰ス 三十三祀、周商牧野ニ會戰ス、商ノ師潰シ、紂鹿臺ニ及リテ自

燔テ死セリ、初王ノ師ヲ出タスヤ孤竹君ノ二子
伯夷叔齊馬ヲ扣ヘ、君臣ノ義ヲ陳レテ諫ム、商ハ
ヒ二子首陽山ニ隱レテ餓死ス、武王即位ス、國ヲ
周ト號ス、建子月ヲ歲首トス、妣己ヲ殺シ箕子ヲ
釋シ比干ノ墓ヲ封シ、商容ノ閭ニ式ス、都ヲ鎬ニ
遷ス、成王^{名ハ誦、武王ノ子}元年、周公旦王カ幼ニシテ
天下ノ畔カンコトヲ恐レ、政ヲ攝行ス、周公ノ元
子伯禽封國魯ニ就久、三年大雷風アリ、王周公
ヲ東ヨリ迎フ、周公攝政ス、管叔蔡叔流言シテ曰
ク公將ニ孺子ニ不利セントスト、周公遂ニ位ヲ

避テ東ニ居ル、時ニ暴風雨日夜休マス、王大ニ恐
レテ、公ヲ迎ヘ歸ス、管蔡遂ニ武庚ト亂ヲ作ス、公
王命ヲ奉シ伐テ武庚管叔ヲ誅シ、蔡叔ヲ放シ、武
庚ハ殷ノ後、是ニ於テ微子ヲ殷ノ後トシ、宋ニ國
ス、康王^{名ハ釗、成王ノ子}二十六年、太保召公奭薨ス、
謚シテ康公ト曰フ、公西方ヲ治メ、其民和ヲ得ク
リ、嘗テ棠樹下ニ訟ヲ聽ク、後人其樹ヲ伐ルニ忍
ヒス、甘棠ノ詩ヲ作ル、昭王^{名ハ瑕、康王ノ子}王南征
シテ漢水ニ溺死ス、五傳シテ厲王ニ至ル、厲王
^{名ハ胡、夷王ノ子}三十二年、衛巫ヲシテ謗ル者ヲ監セン

召公諫ハレトモ聽カス國人相畔テ王ヲ襲ス
 王疏ニ出奔ス諸侯共ニ國事ヲ理ム號シテ共和
 曰ス宜王名ハ靜厲元年周公後且ノ名公爽
 政ヲ輔ク諸侯復周ヲ宗トス幽王名ハ宮涅三
 年褒人罪アリ女ヲ入レ贖ス是ヲ褒姒トス王之
 ヲ愛シ子伯服ヲ生ム以テ太子トシ申后及ヒ太
 子ヲ廢ス十一年申侯申后父大戎ト入寇シ王ヲ
 弑シ故ノ太子宜白ヲ立ツ平王名ハ宜白元年
 王犬戎ヲ恐レテ東洛邑ニ遷ル周室衰微ス桓王
名ハ林平王十三年王鄭ヲ伐テ繻葛ニ戰フ初

平王ノ時鄭伯公莊卿士タリ王政ヲ號ニ分タント
 ス鄭伯怨ム王崩スルニ及ヒテ周人號公ニ政ヲ
 卑ヘントス鄭ノ祭足師ヲ帥テ周ヲ侵ス王諸侯
 ヲ以テ鄭ヲ伐ツ祝聃王ヲ射テ肩ニ中ツ莊王
名ハ佗桓十二年齊ノ公子小白立ツ先ニ襄公小白
 兄連稱管至父ヲシテ葵丘ヲ成ラシム期ニ至テ
 代ヘス故ニ二人公孫無知小白ニ因テ亂ヲ作シ
 襄公ヲ弑シテ無知ヲ立ツ公子糾小白魯ニ奔リ
 小白莒ニ奔ル大夫雍廩無知ヲ殺ス高偃桓公小
 白ヲ迎立ス魯ヲシテ子糾ヲ殺サシム其傅召忽

爲ニ死ス、桓公管仲亦子糾ヲ請ヒテ親郊ニ逆ヘ
用井テ相トス、僖王名ハ胡齊元年、魯公齊公ト
柯ニ會ス、曹沫七首ヲ以テ桓公ヲ劫ス、齊因テ魯
ノ侵地ヲ反ス、惠王名ハ閔十七年、狄人來テ
衛ヲ伐チ、懿公ヲ殺シ、衛ヲ滅ス、國人戴公申ヲ立
シ、期年ニシテ卒ス、齊諸侯ヲ率井テ其弟文公燬
ヲ立ツ、二十一年、齊諸侯ヲ率井テ楚ヲ伐ツ、楚
懼テ名陵ニ盟ス、襄王名ハ鄭九年、齊ノ小白
卒ス、桓公内寵多シ、五子黨ヲ樹テ、立ダシコトヲ
争ス、國大ニ亂ル、十六年、晉ノ公子重耳晉ニ入

ル、重耳ハ獻公ノ子ナリ、驪姫譖シテ太子申生ヲ
殺ス、重耳恐レテ母國狄ニ奔リ、遂ニ齊楚秦ニ至
ル、外ニ在ルコト凡十九年、晉ノ惠公卒ス、秦乃兵
ヲ發シテ、重耳ヲ晉ニ送リテ之ヲ立シ、是ヲ文公
トス、十七年、王ノ後母弟叔帶亂ヲ作ス、王鄭ニ
奔ル、晉ノ文公王ヲ納レ、叔帶ヲ誅ス、二十五年
晉ノ文公卒ス、秦ノ師鄭ヲ伐ツ、晉ノ襄公之ヲ殺
ニ敗ル、匡王名ハ莊、襄王ノ子六年、晉ノ趙盾其君
夷臯ヲ弑ス、晉ノ靈公不君ナリ、盾數諫ム、公之ヲ
患テ之ヲ殺サント計ル、盾奔ル、盾ノ從父昆弟ノ

子穿襲テ、靈公ヲ殺ス、太史董狐書シテ曰ク趙盾
其君ヲ弑ス、盾曰ク弑スル者ハ趙穿ナリ太史曰
ク子正卿ト爲テ、立テ境ヲ越エス、反テ賊ヲ討ヤ
ス、子ニ非スシテ誰ソ、定王名ハ瑜、匡
王ノ弟十一年晋
ノ屠岸賈趙朔ヲ下宮ニ殺シ、其家ヲ滅ス、朔ハ盾
ノ子ナリ、程嬰朔ノ遺腹ノ子ヲ負テ山中ニ匿ル、
公孫杵臼其難ニ死ス、後十五年、其子武長ス、嬰共
ニ謀テ賈ヲ滅ス、景王名ハ貴、靈王ノ子、
定王ヨリ四世二年鄭
ノ公孫僑卒ス、子產疾アリ子大叔ニ謂テ曰ク、有
德者電ヲ以テ民ヲ服ス、其次ハ猛ニ如ハナシト、

子產卒ス孔子曰ク古ノ遺愛ナリ、敬王名ハ
倅、景王ノ
弟十五年、楚ノ申包胥秦ノ師ヲ乞テ楚ヲ
救ス、初伍員ノ父奢楚ノ平王ニ殺サル、買呉ニ奔
ル、呉ヲ導テ楚ヲ伐テ、平王ノ屍ヲ鞭ツ、昭王隨ニ
奔ル、申包胥秦ニ走リ急ヲ告ケ、七日七夜哭シテ
聲ヲ絶タス、哀公之ヲ憐ミ、兵ヲ遣テ楚ヲ救ス、
二十年、魯侯齊侯ニ夾谷ニ會ス、齊萊人ヲシテ衆
ヲ爲シ、魯君ヲ執ヘントス、孔子其無禮ヲ責メ、侵地
ヲ反サシム、二十三年、魯孔子ニ相事ヲ攝セシ
ム、七日シテ、政ヲ亂セル大夫少正卯ヲ誅ス、

二十四年吳越ヲ伐テ、蕩李ニ敗ル。闔閭指ヲ傷キテ卒ス。夫差嗣ク、二十六年、吳子越ヲ夫椒ニ敗ル。三十九年、齊ノ田恒其君ヲ弑ス。齊ノ桓公ノ世ニ、陳ノ公子完齊ニ奔リ、姓ヲ田ト更ム。後齊亂レテ、政田氏ニ歸ス。是ニ至リテ恒簡公ヲ弑ス。元王名ハ子、敬三年、越王吳ヲ滅ス。越王常ニ吳ニ報イント欲シ、計テ吳ヲ驕ラシム。吳子胥數吳王ヲ諫ム。太宰嚭子胥ヲ讒ス。吳王遂ニ子胥ニ死ヲ賜フ。子胥曰ク、吾眼ヲ抉テ東門ニ懸ケヨ。越兵シ入ルヲ觀ム。越果シテ入ル。夫差自剄ス。貞定

王名ハ介、元十一年、晉ノ荀瑤智伯趙襄子韓康子魏相子范中行荀滅ス。十四年、智伯韓魏ノ甲ヲ帥井テ趙襄子ヲ晉陽ニ圍ム。十六年、趙襄子韓魏ト約シ、反テ荀瑤ヲ攻テ之ヲ滅シ、其地ヲ三分ス。瑤カ臣豫讓、數襄子ヲ刺サントス。襄子義トシテ、己カ衣ヲ解テ之ニ與フ。讓劍ヲ拔テ之ヲ擊テ曰ク、以テ智伯ニ報ス可シト。遂ニ自殺ス。考王名ハ嵬、貞定十五年、西周公惠其子班ヲ鞏ニ封シ、王ヲ奉シテ東周ト號ス。威烈王名ハ午、考二十三年、魏趙韓ニ命シ、諸侯ト、魏桓子ノ子文

侯斯賢ナリト子夏田子方ヲ師トス世子擊子方
ニ逢フ車ヨリ下リ伏謁ス子方禮セズ擊曰ク富
貴ノ者人ニ驕ルカ貧賤ノ者人ニ驕ルカ子方曰
ク亦貧賤ノ者人ニ驕ルノミ富貴ノ者安ソ敢テ
人ニ驕ラン富貴ニシテ人ニ驕レハ國ト家トヲ
失フ安王名ハ驕厲五年嚴仲子韓ノ相俠累ト
卻アリ齊人聶政ノ勇ヲ聞テ請テ讐ヲ報イント
欲ス俠累方ニ府ニ坐ス政直ニ入テ之ヲ刺ス因
テ自ラ面ヲ皮ハキ眼ヲ抉テ死ス其姉嫪往テ哭
シテ曰ク是深井里ノ聶政ナリ妾カ故ニ重ク自

刑スルナラント遂ニ其尸傍ニ死セリ名ハ額王
扁烈王十年秦衛鞅ヲ左庶長トス鞅法ヲ變セン
ト欲ス民ノ信セサランコトヲ恐レ三丈ノ木ヲ
國都ノ南門ニ立テ曰ク北門ニ徙ス者アラハ五
十金ヲ予ヘント徙ス者アリ輒五十金ヲ與ス乃
令ヲ下ス秦人皆令ニ趨クニ十八年魏ノ龐涓
韓ヲ伐ツ齊ノ田忌孫臏韓ヲ救フテ直ニ魏都ニ
趨ク涓韓ヲ去テ歸ル臏魏ノ地ニ入り十萬ノ竈
ヲ爲ル明日ハ五萬ノ竈又明日ハ二萬ノ竈ヲ爲
ル涓大ニ喜テ曰ク齊軍固ヨリ怯シ吾カ地ニ入

リ士卒亡ルモノ過半ナリト乃急ニ贖ヲ逐ス、贖
其行クラ度ルニ、暮ニ馬陵ニ至ルヘシ、大樹ヲ斫
リ白書シテ曰ク、麗涓此樹下ニ死セン、涓果シテ
夜至ル白書ヲ見テ之ヲ燭セバ、萬弩俱ニ發ス、魏
ノ師大ニ亂ル、涓自剄ス齊魏ノ太子申ヲ虜ス、
三十一年、秦衛鞅ヲ商君ト號ス、商君法ヲ用井
ル嚴ナリ、人多ク怨ム孝公卒ス、公子虔ノ徒鞅ヲ
捕メントス、鞅亡テ關下ニ舍ラントス、舍人曰ク、
商君ノ法ニ無驗ノ者ヲ舍スレハ之ヲ坐ス、鞅曰
ク、法ヲ爲スノ弊一ニ此ニ至ルカト、去テ魏ニ之

ク、魏人^ノ之ヲ秦ニ内ル、惠王車裂シテ以テ徇フ、
三十六年、燕趙韓魏齊楚合從シテ秦ヲ擯ク、蘇秦
ヲ從約ノ長トス、四十一年、秦張儀ヲ相トス、
四十八年、齊薛公田文ヲ孟嘗君ト號ス、文ハ嬰ノ
子ナリ、游士ヲ招キ、食客數千人、名天下ニ重シ、
慎靚王^{名ハ定、顯王ノ子}五年、燕君會國ヲ相子之ニ讓ル、
其後國亂ル、齊之ヲ伐テ子之ヲ醢ニシ、君會ヲ殺
ス、赧王^{名ハ延、慎王ノ子}三年、燕人太子平ヲ立ツ、是ヲ昭
王トス、王身ヲ昇グシ賢ヲ禮シ先王ノ恥ヲ雪カ
ントス、郭隗曰ク、王士ヲ致サント欲セハ、先隗ヨ

リ始メヨ、昭王隗カ爲ニ改テ宮ヲ築テ之ニ師事
ス、是ニ於テ樂毅鄒衍劇辛等爭テ燕ニ趨ク、四
年秦張儀ヲシテ楚韓齊趙燕ニ説キ、連衡シテ秦
ニ事ヘシム、秦君卒ス、諸侯復合從ス、七年、秦甘
茂ヲシテ韓ヲ伐タシム、茂王ノ信セサランコト
ヲ恐レ、息壤ニ盟テ行ク、五月マテ拔ケス、樗里子
公孫奭果シテ之ヲ爭フ、王兵ヲ罷ント欲ス、茂曰
ク、息壤彼ニ在リ、王兵ノ起シ、茂ヲ佐ケテ、宜陽ヲ
拔ク、十六年、秦ノ昭王楚ノ懷王ヲ誘キ武關ニ
會盟セントス、昭王屈平曰ク、秦ハ虎狼ノ國ナリ

信ス可ラス、子蘭王ヲ勸テ行カシム、秦果シテ之
ヲ執フ、楚太子横ヲ立ツ、十七年、齊ノ田文、秦ニ
在テ殺サレントス、王ノ寵姫ニ賂ヲ免ルヲ得タ
リ、夜半去テ函谷關ニ至ル、關法鶏鳴テ乃客ヲ出
ス、時ニ尚早シ、追者至ラントス、客能鶏鳴スル者
アリ、鶏盡ク鳴ク、遂ニ出ツ、文還テ韓魏ト秦ヲ攻
テ之ヲ敗ル、三十一年、燕ノ昭王樂毅ヲ將トシ、
秦魏韓趙ト齊ヲ伐テ七十餘城ヲ下ス、楚ノ淖齒
齊ヲ救ス、因テ齊ニ相トシテ、燕ト齊ノ地ヲ分タ
ント欲ス、遂ニ齊ノ湣王ヲ殺ス、三十二年、淖齒

、亂王、子法章名姓ヲ變シ、莒ノ太師敖ノ家傭
トナル。屠王ノ從者王孫賈市人ヲ率テ莒ヲ攻殺
シ、法章ヲ立テ、王トナシ、莒城ヲ保テ、燕ヲ拒メ、
趙管テ楚ノ和氏ノ璧ヲ得タリ、秦ノ昭王十五城
ニ易ヘント請ム、趙王給カレ、ンコトヲ恐ル、藺相
如曰ク、臣願クハ璧ヲ奉シテ往カン、既ニ至ル、秦
王城ヲ償フニ意ナシ、相如乃給テ璧ヲ取リ、怒髮
冠ヲ指シ却立シテ曰ク、臣カ頭壁ト俱ニ碎ケン
ト、秦王賢トシテ之ヲ歸ス、三十六年、秦趙渾池
會ム、秦王趙王ニ瑟ヲ鼓カシム、藺相如秦王ニ

請テ缶ヲ擊タシム、秦王肯セム、相如曰ク、五步ノ
内臣頸血ヲ大王ニ濺カント、秦王爲ニ缶ヲ擊ツ、
樂毅齊ノ莒卽墨ヲ圍ム、三年下ラス、燕昭王薨
シ、惠王立ツ、騎劫毅ニ代リテ、將タリ、齊ノ田單千
餘ノ牛角ニ兵从ヲ束テ、其尾ヲ燒テ之ヲ驅ル、壯
士五百人、之ニ隨フ、燕ノ軍大敗ス、七十餘城皆復
ス、乃襄王ヲ莒ヨリ迎テ臨菑ニ入ル、孟嘗君客
馮驩ヲシテ、債ヲ薛ニ收メシム、驩盡ク息ヲ納ム
ルコト能ハサル者ノ券ヲ燒ク、文怒ル、驩曰ク、薛
ノ民ヲシテ君ヲ親マシムルノミ、四十五年、秦

范雎ヲ相トス、魏人范雎嘗テ須賈ニ從テ齊ニ使
ス、襄王雎ニ金ヲ賜ス、賈國ノ陰事ヲ告クルカト
疑ヒ、歸テ其相魏齊ニ告ク、齊怒テ雎ヲ笞大脇ヲ
折リ、齒ヲ摺ク、雎佯死ス、乃之ヲ賁ニ卷テ厠中ニ
置ク、雎守者ニ告テ出ルヲ得タリ、姓名ヲ張祿ト
改ム、秦ノ謁者王稽ニ從テ秦ニ入り、昭王ニ遠交
近攻ノ策ヲ説ク、王雎ヲ客卿トス、雎遂ニ相タリ、
而シテ魏知ラス、須賈ヲ秦ニ使ス、雎敝衣間歩シ
テ賈ヲ見ル、賈驚テ曰ク、范叔一寒此ノ如キカト、
乃一綈袍ヲ與ス、賈相府ニ入ル、雎盛ニ帷帳ヲ陳

ネテ之ヲ見ル、賈頓首シテ謝ス、雎曰ク、汝死ナサ
ルヲ得ルハ、綈袍戀々故人ノ意アルヲ以テナリ、
我カ爲ニ魏齊カ頭ヲ斷リ來ル、然ラスハ我大梁
ヲ屠ラン、齊恐レテ趙ニ走ル、五十五年秦趙ヲ
伐シ、又間ヲ縱テ曰ク、馬服君ノ子括ノ將タルヲ
畏ルト、趙乃趙括ヲ廉頗ニ代ス、括秦ノ將白起ニ
射殺サレ、降卒四十萬、皆長平ニ坑ニセラル、五
十七年、秦趙ヲ伐シ、趙ノ平原君勝門下文武ノ客
二十人ト共ニ楚ニ至リ、救ヲ求ム、議久ク決セズ、
客毛遂劍ヲ按シ、歷階シテ上テ曰ク、從ノ利害一

言ニシテ決セリ、今日中マテ決セサルハ何ソヤ、
楚王曰ク唯々、遂銅盤ヲ奉シ、跪テ之ヲ楚王ニ進
メテ曰ク王血ヲ軟テ從ヲ定ムヘシ、次ハ吾君、次
ハ遂ト、手十九人ヲ招テ與ニ堂下ニ軟ラシメテ
曰ク公等碌々謂ハユル人ニ因テ事ヲ成ス者ナ
リ、楚乃趙ヲ救フ、魏ノ晉鄙師ヲ師テ趙ヲ救フ、鄴
ニ止ル、公子無忌ノ客侯嬴カ七朱亥ヲ薦テ鄴ヲ
推殺シ、其軍ヲ奪テ以テ進ミ、大ニ秦ノ軍ヲ破ル、
五十八年秦ノ太子ノ子異人趙ヨリ逃レ歸ル、
異人ハ夏姫ノ子趙ニ質タリ、陽翟ノ大賈呂不韋

之ヲ見テ爲ニ秦ニ適キ、太子ノ妃華陽夫人ニ説
テ太子ニ言ハシメ、立テ適トナス不韋傳タリ、邯
鄲ノ姫ヲ娶テ身ムヲ知リ、之ヲ異人ニ獻ス、子政
ヲ生ム、邯鄲圍ミ急ナリ、趙異人ヲ殺サントス、異
人脱走シテ秦ニ歸ル、五十九年秦周ニ入ル、王
卒ス、翌年秦西周公ヲ單孤聚ニ遷ス、後秦遂ニ東
周ヲ滅ス、

秦紀

姓ハ嬴氏非
後咸陽ニ都

始皇帝

諱ハ政、實ハ呂氏

九年秦ノ嫪毐亂ヲ作ス、之ヲ族

誅ス、呂不韋太后ニ通ス事ノ覺レ、コトヲ恐レ

舍人嫪毐ヲ宦者ト詐リ之ヲ進ム事覺レ毒ヲ誅
シ太后ヲ雍ニ遷ス齊ノ客茅焦諫ム乃太后ヲ迎
テ歸ル楚ノ考烈王子ナシ趙人李園其妹ヲ黃
歇ニ進メテ娠ム園妹ヲシテ歇ニ説テ己レヲ王
ニ進メシム王之ヲ幸シ男ヲ生ム立テ太子トス
園遂ニ歇ヲ刺殺シテ口ヲ滅ス廿年燕ノ太子
丹秦ニ質タリ其無禮ヲ怒テ亡ケ歸リ秦ニ報イ
ントス荆軻ヲシテ燕ノ督亢ノ地圖ヲ挾ミ秦ニ
入り秦王ニ見エシム軻圖ヲ奉進ス圖窮テ匕首
見ユ秦王ノ袖ヲ把テ搥カントス王走リ劍ヲ拔

テ軻ヲ撃ツ軻罵テ曰ク事ノ成ラサル所以ハ生
ナカラ玃シ必約契ヲ得テ太子ニ報セジトスレ
ハナリ王怒テ燕ヲ攻ム燕丹ヲ斬テ秦ニ獻ス
二十六年秦初テ天下ヲ并ス秦王號ヲ更テ皇帝
ト曰ス自稱シテ朕ト曰ク制シテ曰ク臣子ノ君
父ニ謚スルハ甚謂ハレナシ朕ヲ始皇帝トシ後
世計ヲ以テ數ヘ二世三世萬世ニ至リ無窮ニ傳
ヘム天下ヲ分チテ三十六郡トス二十八年
帝東巡シテ鄒嶧山ニ上リ石ヲ立テ功ヲ勦シ泰
山ニ封シ梁父ニ禪ス齊人徐市等ヲ遣テ海ニ入

天仙人ヲ求ム、二十九年、帝東巡シテ陽武ニ至ル、韓人張良カ士ヲシテ鐵椎ヲ以テ始皇ヲ搏浪沙ニ狙撃ス、誤テ副車ニ中ツ、始皇驚キ大ニ求ムレトモ得ス、三十二年、帝北巡シ、蒙恬ヲ遣テ匈奴ヲ伐ツ、盧生奏スル圖書ニ秦ヲ亡スハ胡ナラント曰ノヲ以ナリ、三十四年、李斯ノ言ニ從テ、詩書百家ノ語ヲ燒ク、鑿藥ト筮種樹ノ書ノミ去テス、三十五年、朝宮ヲ營ミ、前殿阿房ヲ作ル、侯生盧生相俱ニ始皇ヲ譏議ス、始皇諸生ヲ按問シテ、四百六十餘人ヲ阮ニス、長子扶蘇諫ム、始皇怒テ蒙恬ノ軍ヲ上郡ニ監セ

レハ、三十七年、帝東巡シテ沙丘ニ崩ス、丞相李斯宦者趙高遺詔ヲ矯テ、少子胡亥ヲ立テ、扶蘇蒙恬ヲ殺ス、二世皇帝諱ハ胡亥、趙高二世ニ説テ、大臣及諸公子ヲ誅ス、元年、陳勝兵廣兵ヲ起シ、韓ヲ攻メ下ス、因テ自立シテ王トナリ、張楚ト號ス、沛人劉邦兵ヲ起ス、邦初、泗水亭長タリ、縣ノ爲ニ徒ヲ驪山ニ送ル、豐西ニ到テ、其徒ヲ解縱ス、夜醉テ澤中ヲ經、大蛇徑ニ當レリ、劍ヲ拔テ蛇ヲ斬ル、老嫗アリテ哭シテ曰ク、吾子ハ白帝ノ子ナリ、今赤帝ノ子ニ斬ラルト、陳勝ノ起ルヤ沛ノ令

應セント欲ス、掾主吏蕭何曹參邦ノヲ召サシム、李ノ衆已ニ數十百人アリ、令悔テ城ヲ閉シ、李帛書ヲ城上ニ射テ、沛ノ父老ニ諭ス、父老子弟ヲ率テ令ヲ殺シ、李ヲ迎テ沛公トス、楚人項梁兵ヲ具ニ起ス、梁ハ楚ノ將項燕ノ子ナリ、兄ノ子藉ヲシテ會稽ノ守通ヲ斬ラシム、其印ヲ佩ス、兵中ノ兵八千人ヲ得タリ、藉字ハ羽裨將タリ、二年秦益兵ヲ遣シ、楚ヲ擊ツ、楚ノ莊賈其君勝ヲ弑シテ秦ニ降ル、呂臣賈ヲ討テ之ヲ誅ス、居巢ノ人范增項梁ニ說テ楚ノ懷王ノ孫心ヲ立ツ、張良梁

ニ說テ韓ノ公子成ヲ立テ韓王トス、趙高丞相李斯ヲ譖スニ世斯ヲ咸陽ノ市ニ腰斬ス、斯顧テ其中子ニ謂テ曰久吾若ト復黃犬ヲ牽テ俱ニ上蔡東門ヲ出テ狡兔ヲ逐フコトヲ得ヘケンヤト父子相哭ス、趙高權ヲ專ニセント欲ス、群臣ノ聽カサランコトヲ恐ル、乃鹿ヲ二世ニ獻レテ曰ク馬ナリト、二世咲テ曰久丞相誤レルカ、左右ニ問フ或ハ默シ、或ハ言フ高陰ニ鹿ト言フ者ニ法ヲ中ニ群臣畏テ敢テ其過ヲ言フ者ナシ、秦ノ章邯定陶ヲ破リ項梁死ス、乃趙ヲ擊ツ、趙救ヲ楚ニ

請フ楚王宋義ヲ上將軍トシ項羽ヲ次將トシテ
趙ヲ救フ初楚ノ懷王諸將ト先關中ヲ定ムル者
之ニ王タルヲ約ス時ニ秦兵強シ獨項羽秦ノ項
梁ヲ殺セルヲ怨ミ奮テ關ニ入ラント欲ス諸將
曰久藉ハ慄悍猾賊ニシテ過クル所殘滅セサル
ハナシ沛公ハ寛大ノ長者ナリ獨遣ル可シト乃
沛公ヲ遣ル 三年宋義趙ヲ救ヒ安陽ニ至テ進
マズ藉疾ク河ヲ渡ルヲ勸ム義聽カス羽帳中ニ
就テ義ヲ斬リ兵ヲ引テ河ヲ渡リ舟ヲ沈メ釜ヲ
破リ三日ノ糧ヲ持チ以テ必死ヲ示ス大ニ秦兵

ヲ鉅鹿ニ破リ王離等ヲ虜シ章邯董賢ノ降ス羽
諸侯ノ上將軍タリ 沛公武關ニ入ル趙高二世
ヲ望夷宮ニ弑シ子嬰ヲ立ツ子嬰高ヲ討殺ンテ
三族ヲ夷ス

西漢紀 姓ハ劉氏長
安ニ都ス

高祖高皇帝 諱ハ邦元年西楚沛公霸上ニ至ル秦
字ハ季元年 王子嬰降ル沛公咸陽ニ入ル父老ト法三章ヲ約
ス人ヲ殺ス者ハ死ス人ヲ傷ケ及盗セハ罪セシ
ト秦ノ民大ニ喜シ沛公兵ヲ遣リテ函谷關ヲ守
ラシム項羽至ル關閉チタリ大ニ怒テ之ヲ攻破

ス范增羽ニ説テ急ニ沛公ヲ撃タシム羽ノ季父
項伯馳テ之ヲ張良ニ告久沛公且日來テ羽ニ鴻
門ニ見コ罪ヲ謝ス羽留メテ飲ス増數羽ニ目示
ハ羽應ヤス乃項莊ヲシテ劍舞シテ因テ沛公ヲ
撃タシム伯モ亦劍舞シ身ヲ以テ沛公ヲ翼蔽ス
樊噲事ノ急ナルヲ聞テ盾ヲ持シテ直ニ入り目
ヲ瞋シ羽ヲ視ハ頭髮上リ指シ目眦盡ク裂ケ藉
曰久壯士ナリ卮酒彘肩ヲ賜ス須臾シテ沛公起
テ廟ニ如キ間道ヨリ霸上ニ歸ル羽兵ヲ引テ西
シ咸陽ヲ屠リ秦ノ降王子嬰ヲ殺シ宮室ヲ燒キ

始皇ノ冢ヲ掘キ寶貨婦女ヲ收テ東ス秦ノ民大
ニ失望ス羽命ヲ懷王ニ報ス王曰久約ノ如クセ
ン羽怒リ懷王ヲ陽尊シテ義帝トシ藉自立シテ
西楚ノ霸王トナル沛公ヲ立テ漢王トシ巴蜀漢
中ニ王トス韓信ハ淮陰ノ人、家貧シ嘗テ城下
ニ釣ル漂母水ヲ以テ漂ト曰スヲ撃アリ其飢ヲ見テ之
ニ飯ス淮陰ノ少年信ヲ侮テ曰ク能死セハ我ヲ
刺セ死スルコト能ハスハ我勝下ヨリ出ヌ信俯
シテ勝下ヲ出ヌ市人皆笑ス信項羽ニ仕テ用井
ラレス亡テ漢ニ歸ス漢王蕭何ニ聽テ信ヲ大將

二拜ス、王信カ計ヲ用井、諸將ヲ部署シ、何ヲ留メ
シ巴蜀ノ租ヲ收メ、軍食ヲ給シ、兵ヲ舉テ陳倉ヲ
出テ三秦ヲ定ム、二年^{西楚}項藉義帝ヲ江中ニ
弑ス、張耳陳餘同シク趙ニ功アリ、項羽耳ヲ常
山ニ王トシ、獨餘ヲ三縣ニ封ス、餘怒リ、齊王田榮
ニ説テ其兵ヲ以テ常山ヲ擊ツ、耳亡テ漢ニ走ル
餘趙歇ヲ迎テ復趙ニ王トス、歇餘ヲ立テ代王ト
ス、漢陳平ヲ護軍中尉トス、漢王洛陽ニ至リ、義
帝ノ爲ニ喪ヲ發シ、諸侯ニ告テ楚ヲ伐テ彭城ニ
入ル、項羽方ニ齊ヲ擊ツ之ヲ聞テ還テ漢ノ軍ヲ

睢水ノ上ニ擊破ス、漢ノ軍死スルモノ三十萬人
大風晝晦、二會テ漢王乃遁ル、コトヲ得タリ
審食其太公^{漢王}呂氏^{漢王}ニ從テ楚ノ軍ニ獲テ
ル、漢王滎陽ニ至ル、諸敗軍皆會ス、蕭何亦關中ノ
老弱ヲ發シ、悉ク詣ラシム、漢ノ軍復大ニ振ス、
三年^{西楚}韓信張耳趙ヲ擊シ、李左車陳餘ニ説テ
曰ク、井徑ノ道險隘ナリ、糧食必後ニ在ラシ、願ク
ハ奇兵ヲ假テ、間道ヨリ其輜重ヲ絶ク、餘聽カ
ス、信乃先萬人ヲシテ水ヲ背ニシテ陣セシム、平
旦ニ鼓行シテ井徑口ヲ出テ、趙壁ヲ開テ之ヲ擊

以信佯リ水上ノ軍ニ走ル、趙辟ヲ空シテ之ヲ逐
ス、水上ノ軍殊死シテ戦ス、趙ノ軍辟ニ還ラント
ス、辟皆漢ノ赤幟ナリ、遂ニ驚亂ス、漢ノ軍夾ミ撃
チ大ニ之ヲ破リ、陳餘ヲ斬リ、趙歇ヲ禽ニス、隨
何ヲシテ九江王黥布ニ説テ、楚ニ畔テ漢ニ歸セ
レム、酈食其漢王ニ説テ六國ノ後ヲ立テレム、張
良其不可ヲ陳シテ事罷ミ、以其漢王陳平ニ聽テ
反間ヲ楚ニ放ツ、羽大ニ亞父ヲ疑フ、亞父怒リ、疽
背ニ發レテ死ス、楚漢王ヲ滎陽ニ圍ムコト急ナ
リ、紀信誰テ自ラ漢王ト稱ヒ、食盡テ降ルト曰フ

楚人皆城東ニ之ヲ觀ル、漢王乃西門ヨリ出ルコ
トヲ得タリ、項羽紀信ヲ燒殺ス、韓信趙ノ兵ヲ
收テ齊ヲ撃ツ、酈食其漢ノ爲ニ齊王ニ説テ之ヲ
下ス、蒯徹信ニ説テ曰ク、酈生三寸ノ舌ヲ掉ヒ七
十餘城ヲ下ス、將軍將タルコト數歲、反テ一豎儒
ニ如カサランヤ、四年、西楚四年韓信襲テ齊ヲ破ル、
齊王酈食其ヲ烹ル、楚漢廣武ニ軍ス、項羽太公
ノ高俎ニ載セ、漢王ニ告テ曰ク、急ニ下ラスハ太
公ヲ烹ン、王曰ク、懷王ノ時俱ニ約シテ兄弟タリ
吾翁ハ卽若カ翁ナリ、必而カ翁ヲ烹ハ幸ニ一杯

ノ羹ヲ分テト因テ羽カ十罪ヲ數ハ、羽大ニ怒テ、
弩ヲ伏セ王ヲ射テ胸ヲ傷ム。楚龍且ヲシテ齊
ヲ救ハシム、且韓信ト濰水ヲ夾テ陣ス、信夜沙ヲ
囊ニシテ流ヲ壅ク、且ニ渡テ且ヲ撃テ、佯テ敗走
ス、且之ヲ追フ、信乃水ヲ決シ、急ニ撃テ且ヲ殺ス。
漢韓信ヲ立テ齊王トシ其兵ヲ徵シテ楚ヲ撃ツ。
漢英布ノ立テ淮南王トス、是時項羽助少ク、食盡
キタリ、乃漢ト約シ、鴻溝已西ヲ分テ漢トシ、以東
ヲ楚トシ、太后呂后ヲ歸シテ東歸ス、漢王モ亦西
歸セントス、張良陳平之ヲ止ム。五年、是歲楚王項

羽ヲ追テ固陵ニ至ル、韓信彭越黥布皆來會ス、羽
ヲ垓下ニ圍ム、羽夜漢ノ軍四面楚歌タルヲ聞キ、
驚テ曰ク、漢皆已ニ楚ヲ得タリヤ、乃起テ帳中ニ
飲ス、虞美人ニ舞ハシメ、悲歌慷慨シ、自詩ヲ作テ
曰ク、力拔山兮氣蓋世、時不利兮騅不逝、騅不逝兮
可奈何、虞兮虞兮奈若何ト、騅ハ羽カ駿馬ナリ、左
右皆泣ク、羽圍ヲ潰シテ出ツ、漢ノ追兵及フ、羽東
シテ烏江ヲ渡ラントス、亭長船ヲ艤シテ待ツ、羽
咲テ曰ク、藉江東ノ子弟ト江ヲ渡テ西ス、今一人
ノ還ルナシ、何人面目カ其父兄ヲ見ンヤト、乃自

列。楚平公齊王韓信ヲ更メ立テ楚王トシ魏ノ相國彭越ヲ梁王トシ漢王皇帝ノ位ニ卽ク初メ楚ノ將李布數帝ヲ窘ム帝布ヲ購求ス布魯ノ朱家ニ匿ル朱家滕公ニ說キ帝ニ言テ布ヲ赦ス丁公モ亦藉カ將タリ帝ヲ彭城ニ窘ム帝急ナリ顧テ曰久雨賢豈相厄センヤ丁公乃還ル是ニ至テ軍中ニ徇フルニ丁公ノ不忠ヲ以テレテ之ヲ斬ル齊人婁敬帝ニ說テ秦ニ都セシム張良モ亦言ス卽關中ニ都ス六年帝僞テ雲夢ニ遊ヒ楚王韓信ヲ執ス遂ニ赦レテ淮陰侯トシ符ヲ割テ功

臣宗室ヲ封ス蕭何功盛ナルヲ以テ鄧侯トス食邑多シ曹參ヲ齊王肥ノ相國トス雍齒ヲ什方侯ニ封ス齒ハ帝ノ平生最憎ム所ナリ張良カ言ヲ聽テ封レテ以テ諸侯ヲ安シス諸將果シテ曰久雍齒スレ侯タリ我屬患ナシト群臣酒ヲ飲ミ功ノ爭ヒ妄呼シ劍ヲ拔キ柱ヲ擊ツ是ニ於テ博士叔孫通ニ朝儀ヲ起サシム七年長樂宮成ル諸侯辟臣皆朝賀ス振恐肅敬セサルハナシ帝曰久吾乃今日皇帝ノ貴キコトヲ知レシ匈奴邊ニ寇ス帝自之ヲ擊テ平城ニ至ル冒頓單于ノ兵四十

萬騎帝ヲ自登ニ圍ムコト七日、陳平カ秘計ヲ以テ、閼氏ニ厚遺シテ乃解ク、十一年代ノ相陳豨反ス、帝自之ヲ擊ツ、淮陰侯信ノ舍人ノ弟信カ豨ト通スル狀ヲ告ク、呂后謀テ信ヲ給テ之ヲ斬ル、梁王越ヲ殺ス、陸賈ヲ南海ニ遣リ、尉佗ヲ南越王トシ、淮南王黥布帝ノ韓信ヲ殺シ、彭越ヲ醢ニスルヲ見テ、其同功一體ノ人ナルヲ以テ疑テ反ス、帝自之ヲ擊ツ、十二年布ヲ破テ還リ、沛ヲ過キ、故人父老ヲ召シテ飲ス、帝太子ヲ易シト欲ス、呂后張良ヲ要シテ畫計セシム、良太子ヲシテ辭ヲ

卑シ禮ヲ厚シ、東園公綺里奇夏黃公角里先生ヲ招致セシム、後帝置酒ス、四人太子ニ從フ、皆鬚眉皓白衣冠甚偉ナリ、帝曰ク、吾公ヲ求ムルコト數歲、今何ニ自テ吾兒ニ從テ遊フヤト、因テ戚夫人ニ指示シテ曰ク、羽翼已ニ成ル、動シ難シ、帝崩ス、孝惠帝諱ハ魯、高帝ノ太子、母ハ呂后元年、太后趙王如意ヲ殺ス、戚夫人ノ子、高帝先戚夫人ノ手足ヲ斷テ、眼ヲ去リ耳ヲ熏ヘ、瘡藥ヲ飲マシム、廁中ニ置ク、命ヲテ人彘ト曰フ、帝視テ驚キ大ニ哭ス、因テ病テ起ソコト能ハス、二年、相國蕭何卒ス、齊ハ相曹參

趣ニ装ヲ爲サシメテ曰ク吾將ニ入テ相々ラン
トス果シテ何ニ代テ相タリ、參一ニ何ノ約束ニ
遵ヒ、日ニ醇酒ヲ飲ム、七年、帝崩ス、高皇
后諱ハ雉、字ハ娥姁、惠帝子ナン、後宮美人ノ子ヲ取テ太
子トス是ニ至テ即位ス、太后朝ニ臨テ制ヲ稱ス、
元年、陳平ヲ右丞相トシ、審食其ヲ左丞相トス、
太后諸呂ヲ王トセントス、王陵高帝ノ約ヲ執テ
可カス、后陵ヲ太傅ニ遷ス、四年、太后少帝ヲ發
殺シ、恒山王義ヲ立ツ、名ヲ弘ト更ム、亦他人ノ子
ナリ、八年、太后呂氏崩ス、諸呂亂ヲ作サント欲

ス、時ニ呂祿北軍ニ將タリ、呂産南軍ニ將タリ、太
尉周勃陳平ト謀リ、酈寄ヲシテ祿ニ説テ、兵ヲ勃
ニ授ケシム、勃軍門ニ入テ令レテ曰ク、呂氏ノ爲
ニスル者ハ右祖セヨ、劉氏ノ爲ニスル者ハ左祖
セヨ、軍中皆左祖ス、勃遂ニ北軍ニ將タリ、朱虛侯
章ニ卒千人ヲ予ヘ、呂産ヲ撃テ之ヲ殺ス、悉諸
呂ヲ捕斬ス、諸大臣代王恒ヲ迎立ス、太宗孝文
帝諱ハ恒、高帝ノ中子、母ハ薄姬、元年、陳平ヲ左丞相トシ、周勃ヲ
右丞相トス、勃尋テ免ス、三年、張釋之ヲ廷尉ト
ス、帝中渭橋ヲ行ク、橋下ニ走ル人アリ、乘輿ノ馬

驚ク捕テ廷尉ニ屬ス、釋之奏ス、蹕ヲ犯セハ法罰
金ニ當ス帝怒ル釋之曰久法是ノ如シ更ニ重ク
セハ法民ニ信ナラス、六年淮南王長謀反ス、蜀
ニ廢徒セラレテ死ス、民歌テ曰久一尺布尚可縫、
一斗粟尚可舂兄弟二人不相容ト、帝聞テ病ス後
其四子ヲ侯トス、帝賈誼ヲ公卿ニ位セントス大
臣多ク短バ以テ長沙王ノ太傅トス、誼上疏レテ
方今ノ事勢ヲ論ス、因テ治安ノ策ヲ陳ス、六年
匈奴上郡雲中ニ寇ス、將軍周亞夫細柳ニ屯、劉
禮霸シニ屯シ、徐勵棘門ニ屯レテ胡ニ備ス、帝自

軍ヲ勞ラテ、細柳ニ之キテ入ルコトヲ得ス、先驅
曰久天子至此、都尉曰、軍中將軍ノ令ヲ聞テ天
子ノ詔ヲ聞カスト、帝節ヲ持シ、詔シテ門ヲ開カ
シ、門士請テ曰久、軍中驅馳スルコトヲ禁ス、帝
乃書ヲ按シ、徐行ス、歎シテ曰久、是真ノ將軍ナリ、
七年、帝崩ス、帝嘗テ露臺ヲ作ラント欲ス、其直
百金上曰久、是中ノ十家ノ産ナリ、終ニ止ム、孝
景帝諱ハ啓文帝ノ太子母ハ竇太后元年七國反ス、初吳王濞ノ
太子帝ト博シ、道ヲ争ス、帝博局ヲ提テ之ヲ殺ス、
吳王朝セス、鼂錯數、吳ノ削ル可キコトヲ言フ、是

二至テ罪アルヲ以テ楚趙膠西ヲ削ル吳ヲ削ル
ニ及テ遂ニ及ス膠西膠東菑川濟南楚趙同レク
及ス錯袁盎ト善カラス、盎言フ、錯ヲ斬ラハ諸侯
ノ兵罷ム可レト、遂ニ錯ヲ腰斬ス周亞夫大ニ呉
楚ヲ破リ、諸侯皆平ク、亞夫後相タリ、諫テ有ニ忤
ス上曰ク此快々タリ少主ノ臣ニ非スト卒ニ人
ニ誣告セラレ、獄ニ下リ血ヲ嘔テ死ス 三年帝
崩ス 世宗孝武帝 諱ハ徹、景帝ノ中 建元元年、董
仲舒對策レテ王道徳化ノ歸趣ヲ言ス帝之ヲ善
シテ江都ノ相トス、竇嬰ヲ丞相トシ、田蚡ヲ太尉

トス 二年、衛青ヲ大中大夫トス、青ハ帝ノ姉平
陽公主ノ謳者衛子夫ノ母弟ナリ 三年上林苑
ヲ起ス、六年田蚡ヲ丞相トス蚡稍專ナリ帝嘗
テ蚡ニ謂テ曰ク卿吏ヲ除シ盡ルヤ吾モ亦吏ヲ除
セント欲ス及黥ヲ主爵都尉トス黥嚴ヲ以テ憚
カラバ帝嘗テ曰ク吾云々セント欲フ黥曰ク陛
下内多欲ニシテ外仁義ヲ施ス奈何シソ唐虞ノ
治ニ效ハシ帝怒テ曰ク甚シ汲黯ノ黜ナレ 元
光二年方士ヲ遣リ神仙ヲ求ム王恢議レテ匈奴
ヲ誘撃セントス單于覺テ去ル 元朔元年匈奴

入寇ス、李廣ヲ右北平太守トス、匈奴廣ヲ漢ノ飛
將軍ト號シテ之ヲ避ク。三年、張湯ヲ廷尉トス、
湯入ト爲リ諺多シ、智ヲ舞シ入ヲ制御ス、汲黯湯
ト論議ス、忿罵シテ曰ク、天下謂フ刀筆ノ吏公卿
トス可ラスト、果シテ然リ。五年、公孫弘ヲ丞相
トス、弘東閣ヲ開テ賢人ヲ延ク、匈奴朔方ニ寇ス、
衛青ヲ遣ハシ六將軍ヲ率テ之ヲ撃ツ、青ヲ大將
軍トス。六年、民ニ詔シ、爵ヲ買ヒ罪ヲ贖フコト
ヲ得セシム、武功爵ト曰ス、比歲胡ヲ撃チ經用竭
ルヲ以テナリ。元狩元年、淮南王安、衡山王賜謀

反ス、事覺レテ自殺ス、博望侯張騫ヲ西域ニ使ス、
滇國ニ通シ、又西南夷ニ事アリ。四年、皮幣、白金
三銖錢ヲ造鑄ス、桑弘羊孔僅、剝事ヲ言フ、秋、亳ヲ
分ク、諸賈人未作ノ繒、錢及民ノ舟車ヲ算ス、ト式
數財ヲ輸シ邊ヲ助ク、中郎ニ拜シテ百姓ヲ飭ス、
衛青霍去病ヲ遣リテ匈奴ヲ撃ツ、前將軍李廣道ヲ
失テ自殺ス、廣軍ニ在リ士卒ヲ撫以士卒爲ニ用
ヒラル、コトヲ樂ム、死スル時一軍皆哭ス、義縱
ノ右内史トス、王溫舒ヲ中尉トス、二人皆酷吏、溫
舒河内ノ豪猾ヲ捕ス、連坐スル者二十餘家、論報

シテ血ヲ流スコト十餘里、元鼎二年、張湯罪アリ自殺ス、時ニ盜アリ、孝文ノ園ノ瘞錢ヲ發ス、湯其丈ヲ丞相青翟見知ストセントス丞相ノ長史朱買臣王朝邊通言フ、賈人田信湯ト賈利ヲ分ツト、帝湯ヲ切責ス、湯曰ク、臣ヲ陷ル者ハ三長史ナリ、四年倪寬ヲ左内史トス、時ニ吏皆慘刺ヲ尚フ、獨寬農桑ヲ勸メ刑法ヲ緩クス、元封元年東巡シテ神仙ヲ求ム、泰山ニ封シ肅然ニ禪ス、太初元年、太初曆ヲ造ル、正月ヲ歲首トス、天漢元年、中郎將蘇武ヲ匈奴ニ使人、單于武ヲ留メ北海

上ニ徙シ、羝ヲ牧シム、羝乳セハ歸サント曰フ、二年、李廣利ヲ遣リテ匈奴ヲ撃ツ、別將李陵敗レテ虜ニ降ル、帝酷吏ヲ尊用ス、東方盜賊滋起ル、使者ヲ遣リ、繡衣ヲ衣テ斧ヲ持テ督輔ス、征和二年、坐蠱ノ事起ル、巫ハ左道ヲ執テ政ヲ乱シ人ヲ惑ヌ者ヲ言ス帝甘泉宮ノ如キ、江充ヲレテ巫蠱ノ獄ヲ治メンム、太子ノ宮ヲ掘リ木人ヲ得ルコト尤多シト曰フ、太子據懼レ客ヲシテ充ヲ捕斬シ、母衛皇后ニ白シテ武庫ノ兵ヲ出シ長樂宮ノ衛卒ヲ發ス、劉屈氂ト合戦スルコト五日、太子敗レ南走ス、后自殺ス、太子

亡テ湖ニ至リ自經シテ死ス、後元二年弗陵ヲ
太子トス、霍光ヲ大司馬大將軍トシ、金日磾ヲ車
騎將軍トシ、上官桀ヲ左將軍トス、皆遺詔ヲ受テ
少主ヲ輔ケシム、帝崩ス、孝昭帝諱ハ弗陵武帝
少子母ハ趙婕妤始元六年、蘇武匈奴ヨリ還ル、典屬國トス、武匈
奴ニ留ルコト十九年、始強壯ニシテ出ツ、還ル時
頭髮盡ク白シ、元鳳元年、鄴邑長公主燕王且上
官桀、安等謀反シテ皆伏誅ス、桀、安等公主ノ幸入
外丁人ノ爲ニ封侯ヲ求ム、桑弘羊子弟ノ爲ニ官
ヲ求ム、霍光皆與ス、人且ハ帝ノ兄ニシテ立ソコ

トヲ得ス、皆怨望、與ニ謀テ人ヲシテ光ノ罪ニ
上書セシム、帝時二年十四、其詠ヲ覺リ、怒テ曰ク
大將軍ハ國ノ忠臣、先帝朕カ身ヲ輔ケシム、敢テ
毀ル者ハ坐セシ、桀、安等謀テ長公主ヲシテ置酒
シテ光ヲ請ハシメ、兵ヲ伏セテ格殺シ、帝ヲ廢シ、
燕王ヲ立テントス、杜延年以聞ス、詔シテ皆之ヲ
捕誅ス、燕王長公主自殺ス、元平元年、帝崩ス、大
將軍光皇后ノ詔ヲ承テ、昌邑王賀ヲ迎立ス、賀淫
戲度ナシ、光奏シテ之ヲ廢シ、武帝ノ曾孫病已ヲ
迎立ス、病已ハ衛太子ノ孫、巫蠱ノ時、獄中ニ在リ

丙吉護シテ免ルコトヲ得タリ 中宗宣帝

初名ハ病

曰、詢ト更メ名ツク武 永始三年大將軍光ノ妻顯

皇后許氏ヲ弒ス、許后病ハ顯鑒淳于衍ヲシテ毒

弒セシメ光ニ勸メテ其女成君ヲ宮ニ入ル後立

テ、后トス、地節二年大司馬大將軍霍光卒ス

四年霍氏謀反シ伏誅ス、皇后霍氏廢セラレ

元康元年京兆尹趙廣漢ヲ殺ス、廣漢京兆トナリ

政清シ、私怨ヲ以テ人ヲ殺スト言フ者アリ、廷尉

下ス、吏民闕ヲ守リ號泣スル者數萬人、竟ニ要

斬セラレ 神爵元年先零ノ羌楊王叛ス、趙充國

年七十餘將トナリ金城ニ至リ威信ヲ以テ罕開

西羌ヲ招降シ、兵ヲ罷メ屯田ス、羌虜降ル 三年

丞相魏相卒ス、丙吉ヲ丞相トス、相吉ト同心シテ

政ヲ輔ク帝皆重ニス、吉嘗テ羣臣シテ死スル者

ニ逢テ問ハス、牛ノ喘クニ逢テ行クコト幾里ナ

ルヤト問フ、或吉ヲ譏ル、吉曰ク、民闢ハ京兆ノ禁

スヘキ所ナリ、顧フニ春時未熟セズ、牛ノ喘クハ

暑ノ故ナラン、三公ハ陰陽ヲ調フ、職當ニ憂フハ

シト、人其大體ヲ知ルヲ稱ス、韓延壽ヲ左馮翊ト

ス、民昆弟相訟フル者アリ、延壽問ヲ閉テ己カ過

ヲ思フ訟フル者各悔イテ後争ハス、五鳳三年
黃霸ヲ相トス、霸嘗テ潁川太守トナリ、治天下第
一タリ、丙吉卒之ニ代ル、霸民ヲ治ルニ長ス、相
トナリテ功名郡ノ時ヨリ損ス、甘露三年功臣
麒麟閣ニ畫ク凡十一人唯霍光ハ名イハス、大
司馬大將軍博陸侯姓ハ霍氏ト曰ス、黃龍元年
帝崩ス、高宗孝元帝諱ハ爽、宣帝ノ太子、母ハ共哀許皇后、初元二
年、蕭望之自殺ス、石顯ノ中書令トス、弘恭石顯久
レク樞機ヲ典キ、望之周堪劉更生ヲ目シテ朋黨
トシ、廷尉ニ致サント請フ帝其獄ニ送ルコトタ

ルヲ知ラスレテ其奏ヲ可ス、後堪更生ヲ名ス、告
スニ獄ニ繫クラ以テス、帝大ニ驚テ曰ク但廷尉
ノ問フニ非スヤ望之素ヨリ高節アリ、詘辱セズ
帝恭顯ノ譖ニ惑ヒ之ヲ捕ス、望之自殺ス、建昭
二年、魏郡太守京房ヲ殺ス、石顯威權日ニ盛ナリ、
牢梁五鹿充宗等皆寵位ヲ得タリ、民歌テ曰ク牢
邪石邪、何憂々、緩若々邪、竟寧元年匈奴呼韓
邪單于來朝ス、漢ノ嬖タランコトヲ顯ス、後宮ノ
王昭君ヲ賜フ帝崩ス、孝成帝諱ハ翳、元帝ノ太子、母ハ王皇后、太
建始元年石顯罪ヲ以テ免歸ス、道ニ死ス、時ニ元

舅王鳳大司馬大將軍トナリ尚書事ヲ領ス、譚商
立根逢時關内侯タリ、王氏ノ五侯ト稱ス、陽朔
三年王鳳卒ス、王音ヲ大司馬トス、永始元年太
后ノ弟ノ子莽ヲ新都侯ニ封ス、倖仔趙氏ヨ立テ
皇后トス、名ハ飛燕、女弟合德ヲ倖仔トス、四年
王商卒ス、王根ヲ大司馬トス、時ニ吏民多ク上書
シテ言ス、災異ハ王氏專政ノ致ス所ナリト、帝師
傅張禹ニ示ス、禹曰、久新學小生ノ言信用ス可カ
ラス、故ノ槐里令朱雲上書シテ尚方斬馬劍ヲ以
テ倭臣一人ヲ斷ラント曰、上問フ誰ヤ、對テ曰

久安昌侯張禹ナリ、帝大ニ怒リテ曰、久小臣敢テ
師傅ヲ廷辱ス罪赦サス、御史雲ヲ將テ下ル、雲殿
檻ヲ攀シ、檻折ル、雲呼テ曰、久臣龍逢比干ニ地下
ニ從フコトヲ得ハ足シ、左將軍辛慶忌之ヲ救解
ス、檻ヲ治ムルニ及ヒテ、帝曰、久易ルコト勿レ以
テ直臣ヲ旌ハセ、綏和元年王根病テ免ス、王莽
ヲ大司馬トス、莽愈儉約ニシテ名ヲ飾ル、二年
帝崩ス、孝哀帝諱ハ欣、定陶恭王康ノ孫母ハ丁姬、建平四年
帝董賢ヲ嬖シ、恩寵日ニ隆ナリ、尚書僕射鄭崇帝
ヲ諫ム、帝怒リテ獄ニ下シ之ヲ殺ス、元壽元年

丞相王嘉ヲ獄ニ下ス、帝董賢ヲ二千石ニ益封セ
ントス、王嘉詔書ヲ封還ス、帝怒ル、孔光等嘉ノ不
道ヲ効ス、嘉天コ仰テ歎シテ曰ク何武ヲ賢トシ
テ進ムルコト能ハス、董賢父子ヲ惡トシテ退ク
ルコト能ハス、死シテ餘罪アリト、遂ニ食ハス
テ死ス、賢ヲ大司馬衛將軍トス、二年、帝崩ス、董
賢罪ヲ以テ罷ラレ、即日自殺ス、太皇太后王莽ヲ
大司馬トシ、尚書事ヲ領セシム、中山王卽位ス、九年
歲大皇太后朝ニ臨ム、孝平帝諱ハ箕子、名ヲ衍
孫中山王元始元年、王莽ヲ安漢公トス、四年、安
興ノ子

漢公莽ニ宰衡ヲ加號ス、尋テ九錫ヲ加フ、五年
莽帝ヲ弑ス、臘日椒酒ヲ上リ毒ヲ置ク、帝崩ス、太
皇太后詔シテ宣帝ノ玄孫嬰ヲ徵ス、又安漢公莽
ニ詔シテ攝ニ居リ祚ヲ踐マシム、孺子嬰宣帝
孫廣侯居攝元年、安衆侯劉崇兵ヲ起シ莽ヲ
討ス、克ダシテ死ス、二年、東郡太守翟義兵ヲ
起シ莽ヲ討ス、克ダシテ死ス、初、始元年、莽自
新皇帝ト稱ス、新莽始建國元年、莽孺子ヲ廢シ
テ、定安公トフ、天鳳四年、臨淮瑯琊及荊州綠林
兵起、莽法令煩苛、徭役煩劇ナリ、新市ノ人王匡

等兵ヲ起ス馬武王常成丹等往テ從ヒ、繚祿山中
ニ聚ル、五年瑯琊ノ樊宗兵ヲ起ス、宗ノ衆皆其
眉ヲ赤クシ、自識別ス、赤眉ト號ス、地皇三年平
林兵起ル、漢ノ宗室劉續及弟秀兵ヲ春陵ニ起ス、
新市平林ノ兵皆附ク、續性剛毅慷慨ニシテ大節
アリ、秀隆準日角、性稼穡ヲ勤ム、續ノ起ルヌ、春陵
ノ子弟皆懼ル、秀ノ絳衣大冠スルヲ見テ、皆曰ク
謹厚ノ人モ亦復之ヲ爲スト、稍自安ス、淮陽王
諱ハ玄、景帝ノ子長沙王ノ後、在位ニ年、赤眉漢帝
ニ降リ、殺サル、光武即位ス、淮陽王ニ封ス、
玄更始元年、新市平林ノ諸將共ニ劉玄ヲ立テ皇

帝トス、玄ハ春陵ノ戴侯買ノ後、平林ノ兵中ニ在
リ、更始將軍ト號ス、性懦弱ナリ、南面シテ群臣ヲ
朝スルニ、手席ヲ刮シ羞汗シテ言フコト能ハス
宛ニ都ニ劉秀昆陽定陵鄧ヲ下ス、莽王邑主尋ヲ
遣リ兵ヲ發シ、山東ヲ平定セントス、秀王鳳、常
ニ昆陽ヲ守ラシメ、夜出テ、鄧定陵諸營ノ兵ヲ發
シテ俱ニ進ミ、尋邑ト合戦シテ之ヲ奔ラシ、遂ニ
尋ヲ殺ス、莽ノ兵大ニ潰ル、劉續兄弟威名日ニ盛
ナリ、玄乃續ヲ殺ス、秀喪ヲ服セスシテ飲食言笑
ス、惟枕席上涕泣ノ處アリ、更始慙以成紀ノ隗囂

兵ヲ起シ成都ノ公孫述兵ヲ起シ更始將ヲ遣リテ
武關ヲ破ル折入鄧曄兵ヲ起シ迎テ長安ニ入ル
莽曰久天德ヲ予ニ生ス漢兵其予ヲ如何セント
漸臺ニ斬ラル軍人其身ヲ分ク節解シテ之ヲ齎
ス更始洛陽ニ遷都ス父老司隸校尉ノ官屬ヲ見
テ或ハ垂泣シテ曰久圖ヲサリキ今日復漢官ノ
威儀ヲ見ント劉秀司隸校尉劉秀ヲ以テ大司
馬ノ事ヲ行ハレハ遣テ河北ヲ徇テ秀過ル所莽
ノ苛政ヲ除ク南陽ノ鄧禹秀ニ説テ曰ク今英雄
ヲ延攬シ民心ヲ收メ萬民ノ命ヲ救ハ天下ハ

定ハルニ足ラスト秀大ニ悦ブ王郎帝ヲ邯鄲ニ
稱ス二年玄長安ニ遷都ス上谷ノ太守耿況ノ
子弁劉秀ニ盧奴ニ謁ス秀曰久是我北道主人ナ
リト薊城反レテ王郎ニ應ス秀趣ニ城ヲ出テ南
馳ス燕薊亭ニ至ル天寒シ馮異豆粥ヲ上ル凍泥
河ヲ渡リ大風雨ニ遇ス道傍ノ空舍ニ入リテ衣
ヲ燎ル異復麥飯ヲ進ム秀信都ニ赴キ移檄シテ
共ニ王郎ヲ討ス郡縣響應ス遂ニ廣阿ヲ拔ク耿
弁秀ニ會シ進テ邯鄲ヲ拔キ王郎ヲ斬ル秀吏卒
ヲ部分ス皆言フ願クハ大樹將軍ニ屬セント馮

異人ト爲リ謙退諸將功ヲ論スル毎ニ獨樹下ニ
屏久故ニ此號アリ、蕭王時ニ秀蕭王ニ封セラレ銅馬諳賊ヲ
撃チ、河内ヲ徇、鄧禹ヲシテ兵ヲ將テ關ニハラ
レム、寇恂河内ヲ守リ、馮異洛陽ヲ守ル、王自兵ヲ
引キテ燕趙ヲ徇ス

東漢紀

姓ハ劉氏洛陽ニ都ス

世祖光武帝

諱ハ秀、字ハ文、光武、高祖九世ノ孫

建武元年蕭王皇帝

ノ位ニ取ル、赤眉劉盆子ヲ帝トシ、長安ニ入ル、玄
走ル、玄ヲ封レテ淮陽王トシ、帝入テ洛陽ニ都ス
隗囂天水ニ據ル、三年、馮異大ニ赤眉ヲ破、成ニ

破ル、是ヨリ先キ鄧禹長安ニ入リ、赤眉ト戦テ利
アラス、馮異之ニ代ル、禹異ヲ要シテ共ニ赤眉ヲ
攻メ、復敗ラル、異散卒ヲ收テ、鋒ヲ堅ス、已ニシテ
大ニ赤眉ヲ破ル、赤眉降ヲ乞フ、帝軍馬ヲ陳シ、劉
盆子君臣ニ觀シテ曰ク、悔ルコト無キヲ得ンヤ
盆子、丞相徐宣叩頭シテ曰ク、虎口ヲ去テ慈母
ニ歸ス、誠歡誠喜、帝曰ク、卿ハ謂ハユル、鐵中ノ鋒
々、庸中ノ佼佼タル者ナリ、先ニ梁王永帝ヲ睢陽
ニ稱ス、帝蓋延ヲ遣テ之ヲ撃破ス、永湖陵ニ走ル、
四年、隗囂其將馬援ヲ公孫述ニ使ス、援述ト舊

アリ謂フ相見ハ平生ノ歡ノ如シト而ルニ感ニ
陛衛ヲ陳シテ援ヲ延久援歸テ置ニ謂テ曰ク子
陽ハ井底ノ蛙ノミ、乃書ヲ奉シ洛陽ニ至ル歸テ
上カ村明勇略入敵ニ非サルヲ謂ス、五年耿弇
張步ト戰テ大ニ之ヲ破ル帝弇ヲ勞ス步蘇茂ヲ
斬テ降ル齊ノ地悉ク平ク處士周黨嚴光王良ヲ
徵ス光帝ト同シク遊學ス徵サレテ至ル帝ト同
シク卧シテ足ヲ帝ノ腹上ニ加ス太史奏ス客星
御坐ヲ犯スコト甚急ナリ上曰ク朕故人嚴子陵
ト共ニ卧スノミ、六年吳漢等董憲龐參ヲ斬ル

江淮山東悉ク平ク馮異長安ヨリ入朝ス帝珍寶
錢帛ヲ賜テ曰ク倉卒ニシテ燕薊亭ノ豆粥薄茂
河ノ麥飯厚意久シク報セス、八年帝自將トレ
テ置ヲ征ス涼州牧竇融等兵ヲ率テ從フ馬援行
在ニ詰リ米ヲ聚テ山谷トナシ軍ノ向フ所ヲ開
示ス上曰ク虜吾目中ニ在リト遂ニ軍ヲ進ム置
西城ニ奔ル潁川盜起ル帝還テ之ヲ討ス盜悉ク
平ク寇恂前ニ潁川太守タリ百姓道ヲ遮テ曰ク
願クハ寇君ヲ借ルコト一年セズ乃恂ヲ留メテ
鎮撫ス、九年隗囂死ス子純立ツ後來衆破テ之

ヲ降ス、隴右平ク、十一年公孫述盜ヲシテ監護
使者來歙ヲ殺サシム、將軍馬成ニ詔レテ歙ニ代
ス、公孫述盜ヲシテ征南大將軍岑彭ヲ殺サシム、
十二年公孫述兵ヲ引テ出テ戰フ、吳漢擊テ之
ヲ殺ス、延岑成都ヲ以テ降ル、蜀地悉ク平ク、十
三年吳漢ノ軍還ル、功臣ノ封邑ヲ更増ス、皆列侯
ヲ以テ第一就ク、吏職ヲ責メス、十七年、皇后郭
氏ヲ廢シ、貴人陰氏ヲ皇后トス、帝章陵ニ幸シ、宗
室ヲ會飲ス、諸母相與ニ語テ曰ク、文叔平日人ト
歟曲セス、唯直柔ナルノミ、今能此ノ如シト帝咲

テ曰ク、吾、天下ヲ治ムルモ、亦柔道ヲ以テセント
欲ス、馬援ヲ伏波將軍トシ、交趾ヲ討ス、徵側徵貳
ヲ斬テ還ル、十九年、皇太子驪ヲ廢シテ東海王
トシ、東海王陽ヲ立テ皇太子トス、名ヲ莊ト改ム、
湖陽公主ノ奴人ヲ殺シテ、主ノ家ニ匿ル、洛陽令
董宣之ヲ格殺ス、主帝ニ訴フ、帝怒テ宣ヲ笞殺セ
ントス、宣叩頭レテ曰ク、聖德中興ス、奴ヲ縱テ人
ヲ殺サハ、何ヲ以テ天下ヲ治メント主ニ謝セシ
ムレトモ謝セス、帝赦ス、彊項ノ令出テヨト、錢三
十萬ヲ賜フ、二十四年、武陵蠻ヲ征ス、馬援行カ

シト請フ帝其老タルヲ慰ム、援鞍ニ據リ顧眄シ、
用井ルヘキヲ示ス上咲テ曰ク、嬰鑠タルカナ是
翁ト、軍中ニ卒ス、中元二年帝崩ス、顯宗孝明
帝諱ハ英、光武ノ弟永平三年貴人馬氏ヲ立テ皇
后トフ、援ノ女ナリ、德後宮ニ冠タリ、既ニ位ヲ正
シテ愈自ラ謙肅ナリ、中興ノ功臣ヲ雲臺ニ畫ク
馬援、淑房ノ親ヲ以テ獨與カラス、十一年東平
王蒼來朝ス、帝問ス、家ニ處テ何等カ哀樂シキヤ、
王言ス、善ヲ爲スコト最樂シ、十六年班超西域
ニ使ス、鄯善王禮敬忽懈タル、超謂フ此必虜使ノ

來ルナラシメ侍胡ニ問テ匈奴ノ使來ルヲ知ル、乃
其吏士ヲ會シテ曰ク、虎穴ニ入ラスンハ虎子ヲ
得スト、遂ニ夜虜營ヲ攻メ、其使及從士ヲ斬ル、鄯
善震怖ス、十八年帝崩ス、肅宗孝章帝諱ハ興、
第五子母建初元年尚書陳寵上疏シテ曰ク、政ハ
賈貴人猶琴瑟ヲ張ルカ如シ、大絃急ナレハ小絃絶ツ、宜
シク煩苛ヲ蕩滌シ、群生ヲ濟フヘシ、帝深ク之ヲ
納ル、元和元年毛義鄭均ニ穀各千斛ヲ賜フ、張
奉義ノ名ヲ慕ヒ往テ候ス、府檄適至ル、義喜顔色
ニ動ク、奉心ニ賤ンス、後義ノ母死ス、徵辟皆至ラ

ス、奉歎シテ曰ク、賢者固ヨリ測ル可カラス、往日
ノ喜ハ親ノ爲ナリ、均ノ兄縣吏タリ、頗禮遺ヲ受
ク、均諫レトモ聴カス、乃身ヲ脱シ傭トナリ、錢帛
ヲ兄ニ與ヘテ曰ク、物盡レハ復得ヘシ、吏賊ニ坐
スレハ終身捐棄セラレント、兄感シテ遂ニ廉潔
トナル、章和二年、帝崩ス、太子即位ス、太后朝ニ
臨ム、竇憲外戚ヲ以テ侍中タリ罪アリ、匈奴ヲ擊
テ自贖ハンコトヲ求ム、后之ニ從フ、孝和帝諱
肇肅宗、第四子、永元元年、竇憲北匈奴ヲ擊破シ、功
ヲ燕然山ニ勒シテ還ル、四年、大將軍竇憲伏誅

ス、竇氏父子兄弟朝廷ニ充滿ス、遂ニ逆ヲ謀ル、帝
中常侍鄭眾ト議シ、兵ヲ勒シテ憲ノ印綬ヲ收メ、
迫テ自殺セシム、眾ヲ大長秋トシ、典ニ政事ヲ議
ス、宦官權ヲ用井ル此ヨリ始ル、元興元年、帝崩
ス、孝殤帝諱漢和帝ノ少子、延平元年、帝崩ス、
太后鄧氏清河王ヲ迎立ス、孝安帝諱漢和帝ノ少子、
永初四年、虞詡字仲博、朝歌長トス、時ニ鄧騭大
將軍タリ、詡邊事ヲ論シテ騭ニ忤ス、會長歌賊起
ル、因テ詡ヲ朝歌長トス、故舊皆哭ス、詡笑テ曰ク
盤根錯節ニ遇ハスハ利器ヲ別ソコトナント、官ニ

到リ、賊ヲ誘殺シ、縣境皆平ク。元初一年、虞詡ヲ
武都太守トス。羌衆詡ヲ遮ル。詡計ヲ以テ之ヲ散
シ、日夜兼行シ、軍士ニ各兩竈ヲ作ラセ、日ニ之ヲ
増倍ス。或曰、昔孫臏ハ竈ヲ減シ、君之ヲ増ス、
兵法日ニ行クコト三十里、今日ニ行クコト二百
里ナルハ何ゾヤ。詡曰、虜ハ衆久、吾ハ少シ、徐行
スレハ及ハレ易シ、速ナレハ彼測ラレス。虜吾竈
ノ日ニ増スヲ見ハ、郡兵來リ迎フト謂ハシ、臏ハ
弱ヲ示シ、吾ハ強ヲ示ス、勢同レカラサレハナリ、
大ニ虜兵ヲ撃破ス、虜皆散ス。三年、太尉楊震自

殺ス、震郡中タリ、金ヲ遺ル者アリテ曰ク、暮夜知
ル者ナシ、震曰ク、天知ル、地知ル、我知ル、子知ル、何
ゾ知ル者ナカラシ、三公トナルニ及テ、中常侍樊
豐等震ヲ譖ス、帝策シテ印綬ヲ收ム、震慷慨シテ
鳩ヲ飲テ卒ス。四年、帝崩ス、太后閻氏朝ニ臨ム、
北鄉侯懿ヲ迎立ス、中黃門孫程等濟陰王保ヲ迎
立シ、閻顯等ヲ誅シ、太后ヲ遷ス。孝順帝諱ハ保、
安帝ノ子母ハ陽嘉元年、貴人梁氏ヲ立テ皇后トス、漢
安元年、八使ヲ遣ハレ、州郡ヲ分行ス、張綱其車輪
ヲ洛陽ノ都亭ニ埋メテ曰ク、豺狼道ニ當ル安シ

ソ狐狸ヲ問ハシ、梁冀カ君ヲ無スルノ心アルヲ
劾奏ス。時ニ張嬰楊徐ヲ寇亂ス。冀綱ヲ出シテ廣
陵太守トス。綱單車ニシテ賊壘ニ到リ、説テ之ヲ
降ス。建康元年、帝崩ス。太子炳即位ス。太后朝ニ
臨ム。孝冲帝諱ハ炳、順帝ノ子ニ永嘉元年、帝崩
ス。太將軍梁冀太后ニ白シ、勃海孝王ノ子續ヲ迎
立ス。太尉李固長年有德ノ人ヲ擇フヘシト曰ス。
冀從ハス。孝質帝諱ハ續、章帝ノ孫、本初元年、大
將軍梁冀毒ヲ進メテ帝ヲ弑ス。帝少クレテ聰慧
ナリ。冀ヲ目シテ曰ク、此跋扈將軍ナリ。冀深ク惡

ム。遂ニ之ヲ毒弑ス。冀吾侯志ヲ迎立ス。孝桓帝
諱ハ志、章帝ノ曾孫、建和元年、杜喬ヲ太尉トス。李固
孫平原王翼ノ子。建和元年、杜喬ヲ太尉トス。李固
廢セラレ、内外氣ヲ喪フ。唯喬色ヲ正シテ撓マシ、
朝野皆倚望ス。劉文等清河王蒜ヲ立ツルヲ謀リ、
事覺レテ、蒜自殺ス。梁冀因テ誣テ李固杜喬ヲ獄
ニ下シ、之ヲ殺ス。延熹二年、大將軍梁冀伏誅ス。
冀凶恣日ニ積ム。外戚ヲ以テ事ヲ用井ルコトニ
十年、天子手ヲ拱スルノミ。帝官者、單超ト謀テ兵
ヲ勒シ、冀ノ印綬ヲ收ム。冀自殺ス。梁氏少長トナ
久、皆棄市セラレ。黃瓊ヲ太尉トス。汝南ノ范滂ヲ

辟ス滂少クレテ清節ヲ勵マズ、嘗テ清詔使トナ
リ冀州ヲ按察ス慨然トレテ天下ヲ澄清スルノ
志アリ、八年、李膺ヲ司隸校尉トス、諸黃門皆隸
躬レテ氣ヲ屏ム、九年、南陽太守成瑨、太原太守
劉瓚、赦後ニ宦官ノ黨ヲ案殺スルヲ以テ、禁市セ
ラル、太尉陳蕃諫ムルモ納レズ、李膺河内ノ張成
カ人ヲ殺スヲ以テ之ヲ案殺ス、宦官成ノ子弟ニ
教ニ膺等黨ヲ植テ、朝廷ヲ誹訕スト告ケシム、帝
震怒シ、郡國ニ下レテ黨人ヲ逮捕セシム、蕃之ヲ
如ク帝愈怒リ、遂ニ膺ヲ北寺ノ獄ニ下ス、杜密陳

寔范滂ニ連辭ス、使者追捕ス、蕃復極諫ス、帝之ヲ
策免ス、永康元年、黨ハヲ赦シ、田里ニ歸シテ終
身禁錮ス、賈彪、竇武ノ言ヲ用井ルナリ、帝崩ス、太
后朝ニ臨ム、解瀆侯宏ヲ迎立ス、孝靈帝諱ハ宏
玄孫桓帝子トシ、建寧元年、太傅陳蕃、大將軍竇武、
竇皇后之ヲ立ツ、宦者曹節等ヲ誅セント奏ス、謀泄ル、節等詔ヲ矯
テ蕃武ヲ殺ス、遂ニ太后ヲ遷ス、二年、復鉤黨ヲ
治ム、前ノ司隸校尉李膺等百餘人ヲ殺ス、范滂捕
ニ就ク、母訣シテ曰ク、汝今李杜李固杜喬ト名ヲ齊ス
ルコトヲ得タリ、死ストモ何ノ憾ミン、熹平六

年、鮮卑遼西ニ寇ス、太守趙苞ノ母ヲ劫シ、載テ郡ヲ擊ツ、苞悲號シテ母ニ謂テ曰ク、昔ハ母子タリ、今ハ王臣タリ、義私恩ヲ顧レコトヲ得スト、進テ賊ヲ破ル、母害セラル、中元元年、黃巾ノ賊鉅鹿ノ張角等起ル、角妖術ヲ以テ衆數十万ヲ聚ム、皆黃巾ヲ着ク、天下響應ス、皇甫嵩朱雋騎都尉曹操ト、軍ヲ合ヒテ之ヲ破ル、操少クレテ機警權數アリ、任然放蕩ナリ、汝南ノ許劭操ヲ論ス、子ハ治世ノ能臣、亂世ノ姦雄ナリ、皇甫嵩張角ヲ討ム、角死ス、其弟操實ト戰テ之ヲ斬ル、六年帝崩ス、子辨

立ツ、太后何氏朝ニ臨ム、弟協ヲ陳留王トス、后ノ兄何進尚書事ヲ領ス、袁紹進ニ勸メ、宦官ヲ誅セシム、太后肯ンセス、紹等四方ノ猛將ヲ召シ、太后ヲ劫ス、遂ニ將軍董卓ヲ召ス、進ノ謀頗泄ル、宦官張讓等進ヲ殺ス、紹兵ヲ勒シ、諸宦官ヲ捕ヘテ皆之ヲ殺ス、凡一千餘人、卓至リ亂ノ由ヲ問ス、辨年十四、語了スヘカラス、陳留王答テ遺スコトナシ、卓遂ニ辨ヲ廢シ、陳留王ヲ立テ、太后何氏ヲ弑ス、孝獻帝諱ハ操、靈帝ノ中子初平元年、關東ノ州郡兵ヲ起レテ卓ヲ討ス、袁紹ヲ推レテ盟主トス、卓洛陽ノ宮

廟ヲ燒キ、諸帝陵ヲ發キ都ヲ長安ニ遷ス、長沙太守孫堅兵ヲ舉テ卓ヲ討ス、袁術南陽ニ據ル、堅ヲ表シテ豫州刺史トス、劉表ヲ荊州刺史トス、曹操卓ノ兵ト滎陽ニ戰ス、克タス、還テ河内ニ屯ス、二年、諸將大司馬劉虞ヲ奉シ帝トセントス、冀色ヲ勵シ叱シテ曰ク、今天下崩亂シ、主上蒙塵ス、未國恥ヲ雪ク能ハス、返テ逆謀シテ相垢汙センヤ、孫堅兵ヲ進メ卓ヲ擊シ、卓敗レテ西ニ走リ、長安ニ至ル、袁紹冀州牧韓馥ヲ逐ヒ、自州事ヲ領ス、公孫瓚袁紹ヲ攻メ、涿郡ノ劉備ヲ平原ノ相トス、備

字ハ玄徳、中山靖王ノ後ナリ、大志アリ、喜怒色ニ形レス、關羽張飛ト友トシ、善シ、皆備ニ從テ起ル、袁術孫堅ヲシテ劉表ヲ擊タシム、表ノ軍之ヲ射殺ス、三年、司徒王允中郎將呂布ヲシテ董卓ヲ誅セシム、布脅カ人ニ過久卓之ヲ信愛ス、嘗テ小シク卓ノ意ヲ失ス、卓手戟ヲ布ニ擲ツ、允卓ヲ誅セントス、布ニ結テ内應セシム、卓入朝ス、勇士ヲ伏テ之ヲ刺ス、卓車ヨリ墜シ、大ニ呂布ヲ呼ス、布曰ク、詔アリテ、賊臣ヲ誅スト、聲ニ應シテ卓ヲ刺ス、遂ニ卓ヲ斬テ屍ヲ市ニ暴ス、卓ノ將李傕郭汜

兵ヲ舉テ闕ヲ犯シ、尤ヲ殺ス。布走、曹操兗州ニ據リ、自刺史ト稱ス。興平元年、陶謙卒ス。謙徐州牧タリ、劉備ヲ表シテ豫州刺史トス。謙疾篤シ、別駕麋竺ニ謂テ曰ク、劉備ニ非サレハ、此州ヲ安スルコト能ハスト。備ヲ迎テ徐州ヲ兼領セシム。二年、李傕郭汜ヲ攻メ、帝ヲ劫シ、入ル其營ニ。入ル孫堅既ニ死ス、子策先ニ富春ヨリ舒ニ徙居ス。是ニ至テ、江ヲ渡テ袁術ヲ見ル。舒入周瑜策ニ從テ起ル。策轉鬪シテ向フ所皆破ル。後會稽太守タリ。建安元年、劉備袁術ト盱眙ニ戰ス。術呂布ニ書ヲ與

ヘテ下邳ヲ襲ハシム。備布ニ降ル。遂ニ與ニ術ヲ擊シ、帝洛陽ニ還ル。曹操入朝シテ、自司隸校尉ヲ領シ、尚書事ヲ録ス。遂ニ大駕ヲ奉リ、許ニ遷ル。操郭嘉ヲ得テ喜テ曰ク、孤ニ大業ヲ成サシムル者ハ必此人ナリ。呂布復劉備ヲ攻ム。備敗走シテ曹操ニ歸ス。操備ヲ豫州牧トス。備沛ニ屯シ、散兵ヲ收テ布ヲ圍ム。三年、呂布復劉備ヲ攻ム。曹操擊テ之ヲ殺ス。操下邳ヲ圍ム。布困迫シテ降ル。操之ヲ縛レテ曰ク、虎ヲ縛スルハ急ニセサルコトヲ得ス。卒ニ縊殺ス。四年、袁術北走ス。劉備ニ詔シ

兵ヲ將サテ之ヲ邀ラシム術還リ走テ死ス初術
帝ト稱シ淫侈滋甚シク資實空虚シテ自立スル
コト能ハス袁紹ニ走ラントス備之ヲ邀ル走リ
還リ冀州ニ坐シテ曰ク袁術乃至ニ至ルカ劉備
兵ヲ徐州ニ起シ曹操ヲ討ス操一日備ニ謂テ曰
ク今天下ノ英雄唯使君ト操ノミ備方ニ食シセ
箸ヲ失フ時正ニ雷電ス備因テ曰ク迅雷風烈必
變スト以アルカ大遂ニ董承等ト謀リ操ヲ誅セ
ントス徐州刺史車胄ヲ殺シ兵ヲ起ス五年操
車騎將軍董承ヲ殺シ劉備ヲ擊ツ備敗レテ冀州

ニ奔ル操備ノ妻子ヲ獲テ關羽ヲ擒ニス袁紹操
ヲ擊テ白馬ヲ圍ム關羽操ノ先鋒タリ紹ノ將顏
良ヲ萬衆中ニ刺ス羽遂ニ去テ劉備ニ紹ノ軍ニ
走ル孫策虚ニ乘テ許ヲ襲ントス先ニ殺ス所ノ
許貢カ刺客ニ射ラハ創甚シ弟權ヲ呼テ謂テ曰
ク機ヲ兩陣ノ間ニ決ハルハ卿我ニ如カス賢ヲ
舉ケ能ニ任シ江東ヲ保ツハ我卿ニ如カスト遂
ニ卒ス權代リテ其衆ヲ領ス六年曹操劉備ヲ
汝南ニ擊ツ備豫州ニ奔ル七年曹操復進ミテ
官渡ニ軍ス袁紹卒ス幼子尚州事ヲ襲行ス後長

子譚ト相攻ム、操攻テ之ヲ滅ス、十二年、劉備諸
葛亮ヲ隆中ニ見ル、亮襄陽ノ隆中ニ寓居ス、自管
仲樂毅ニ比ス、備三タヒ往テ乃見ル、因テ策ヲ問
ス、亮曰ク、曹操衆ヲ擁シ天子ヲ挾テ諸侯ニ令ス、
與ニ鋒ヲ爭ヒ難シ、孫權江東ニ據有ス、與ニ援ト
スヘシ、荊州ハ武ヲ用弁ルノ國、益州ノ天府ナリ、
若シ荊益ヲ跨有シ、好ヲ孫權ニ結ヒ、政ヲ脩メ時變
ヲ觀ハ、霸業成ルヘク、漢室興ルヘシ、備曰ク、善シ
亮ト情好日ニ密ナリ、十三年、三公ノ官ヲ罷ス、
曹操自丞相トナシ、操劉表ヲ擊シ、表卒ス、子琰、荆

州ヲ舉テ降ル、劉備江陵ニ奔ル、操進テ當陽ノ長
坂ニ至ル、張飛備カ後拒クリ、水ニ據リ、橋ヲ斷テ、
目ヲ瞋ラシテ矛ヲ横ヘテ曰ク、身ハ張翼德ナリ、敵
敢テ近カス、備夏口ニ走ル、操エ夏ヨリ江ニ順テ
東下セシトス、諸葛亮救ヲ孫權ニ請ヒ、權ヲ見テ
之ニ説ク、時ニ操水軍八十萬ヲ治テ、吳ニ會獵セ
ントス、吳人色ヲ失フ、周瑜精兵五萬ヲ得テ之ヲ
破ラント請フ、遂ニ備トカヲ并セ、操ヲ逆ヘ進ミ
テ赤壁ニ遇ス、東南風急ナルニ乘シ、盡ク操ノ船
艦ヲ燒久人馬燒溺シテ死スル者甚衆シ、北軍大

漢書卷之五 文書
敗ス、操兵ヲ引テ步走スノ十五年、劉備荊州ヲ孫
權ニ求ム。周瑜曰ク、備ハ梟雄ナリ、關羽張飛熊虎
ノ將アリ、蛟龍雲雨ヲ得ハ終ニ池中ノ物ニ非ス
瑜卒ス、魯肅權ニ勸テ備ニ荊洲ヲ借ス、劉備龍統
ヲ來陽令トス、治フス、魯肅備ニ書ヲ遺テ曰ク、士
元ハ百里ノ才ニ非ス、治中別駕爲ラシメハ、始テ
其驥足ヲ展ク、備遂ニ用テ治中トス、十八年、曹
操自立シテ魏公トナル、十九年、劉備張飛趙雲
ト兵ヲ將井テ流ニ沛リ、巴ヨリ蜀ニ入り進ミテ
成都ヲ圍ム、劉璋降ル、自益州牧ヲ領ク、諸葛亮ヲ

軍師將軍トシ、曹操皇后及皇子二人ヲ弑ス、二
十年、劉備孫權荊州ヲ分以、關羽江陵ヲ守リ、魯肅
陸口ニ屯ス、備既ニ蜀ヲ定ム、權荊州ヲ求ム、備許
サス、會、曹操關中ニ入ル、備使ヲシテ權ニ和ヲ求
ム、荊州ヲ分テ湘水ヲ割テ界トス、曹操關中ヲ取
テ、張魯ヲ走ラス、二十一年、曹操自爵ヲ進メラ
王トナル、二十四年、曹操斜谷ニ出シ、劉備ノ將
趙雲其軍ヲ擊テ之ヲ敗ル、操引テ還ル、備終ニ漢
中ヲ取り自立シテ漢中王トナル、關羽江陵ヨリ
樊城ヲ攻ム、曹操千禁ヲ遣テ曹仁ヲ助ム、七軍皆

没シテ禁降ル、羽又麗徳ヲ斬ル、羽ノ威華夏ニ震
ス、操許都ヲ徙シ其鋒ヲ避ントス、司馬懿曰ク備
ト權ト外親ミ内疎ナリ、權ニ勸テ其後ヲ躡マシ
メヨ、呂蒙モ亦權ヲ勸テ羽ヲ圖ル、操ノ將徐晃樊
ヲ救フ、權ノ將陸遜又羽ノ後ヲ襲ス、羽狼狽シテ
走リ還ル、權ノ軍羽ヲ獲テ之ヲ斬ル、遂ニ荊州ヲ
定ム、二十五年曹操卒ス、太子丕嗣テ丞相トナ
リ、遂ニ皇帝ト稱シ、帝ヲ廢シテ山陽公トス、黃初
ト改元ス、

後漢紀

姓ハ劉氏景帝ノ子中
山靖王ノ後蜀ニ都ス

昭烈帝諱ハ簡、字
玄徳章武元年漢中王皇帝ノ位ニ即
ク、蜀中流言ス、漢帝害セラルト、王喪ヲ發シ、服ヲ
制シ、謚シテ孝愍ト曰フ、群下王ニ尊號ヲ稱スル
ヲ勸ム、乃帝位ニ即ク、諸葛亮ヲ丞相トシ、許靖ヲ
司徒トシ、帝關羽ノ没スルヲ恥チテ、自將トシテ
孫權ヲ伐シ、權使ヲ遣テ魏ニ降ル、二年兵ヲ陸
遜進テ猇亭ヲ攻ム、諸軍敗績ス、帝巫峽ヨリ夷陵
ニ至ルマテ數十屯ヲ立テ、兵軍ト相拒ク、遜火
シテ之ヲ拔ク、帝夜白帝城ニ入ル、吳王權改元シ
テ魏ヲ拒ク、三年帝禪建
興元年魏ノ師濡須ヲ攻ム、別

將江陵ヲ圍ム皆克タス引テ還ル帝永安ニ崩ス
帝病篤シ諸葛亮ニ謂テ曰久君ノ才曹丕ニ十倍
ス必能ク國ヲ安シ大事ヲ定メニ嗣子輔クヘク
ハ之ヲ輔ケヨ如不可ナレハ君自取ヒ亮涕泣シ
テ曰久臣敢テ股肱ノ力ヲ竭シ忠節ヲ効シ繼ク
ニ死ヲ以テセサランヤ帝又禪ニ敕シ亮ニ父事
セシム遂ニ崩ス亮喪ヲ奉シテ成都ニ還ル尚書
鄧芝ヲ吳ニ使ス吳魏ニ絶シ漢ト和ス後帝禪字ハ公嗣
烈ノ太子建興三年丞相亮南征シテ孟獲ヲ生
致ス獲未服セズ乃縱チテ更ニ戰ハシム七クヒ

縱チ七クヒ擒ス猶縱ノ獲止リテ去ラヌトテ曰
久公ハ天威ヲリ南人復反セスト魏主丕舟師ヲ
以テ吳ヲ伐ツ丕江ニ臨ミ波濤ノ洶湧ヲ見テス
シテ曰久固ヨリ天ノ南北ヲ限ル所以ナリト乃
還ル四年魏主丕卒ス子叡立ツ五年元明帝
元承相亮諸軍ヲ率キ出テ中原ヲ圖ル發ハルニ
臨テ上表シテ曰久先帝臣コ草廬ニ顧ミ臣ニ當
世ノ事ヲ諮フ崩スルニ臨テ大事ヲ寄ス命ヲ受
ルヨリ夙夜憂勤ス今南方已ニ定ル中原ヲ定メ
漢室ヲ興復スヘシト遂ニ漢中ニ屯ス六年丞

相亮軍ヲ率テ祁山ヲ攻ム參軍馬稷節度ニ違ヒ
大ニ街亭ニ敗ル亮乃漢中ニ還ル七年吳黃龍元年
吳主權皇帝ト稱シ建業ニ遷都ス九年丞相亮
魏ノ祁山ヲ圍ム司馬懿出テス亮還ル懿其後ヲ
躡ム又肯テ戰ハス賈詡等曰ク公蜀ヲ畏ル虎ノ
如シ天下ノ笑ヲ奈何セシ乃出テ戰ス大ニ敗ル
亮糧盡テ軍ヲ退ク魏ノ將張郃之ヲ追フ亮乃伏
弩ニ中テ死ス十二年丞相亮魏ヲ伐ツ初亮木
牛流馬ヲ作テ米ヲ運シ斜谷ニ集ム是ニ至テ斜
谷ヨリ魏ヲ伐ツ司馬懿渭ヲ渡テ之ヲ拒ク亮五

丈原ニ屯シ兵ヲ分テ屯田ス渭濱居民ノ間ニ雜
リ百姓安堵シ軍私ナシ丞相武侯諸葛亮軍ニ卒
ス長史楊儀軍ヲ整テ還ル懿之ヲ逐フ姜維儀ヲ
シテ旗ヲ反シ鼓ヲ鳴キ懿ニ向ハントスルカ如
クセシム懿敢テ逼ラス百姓諺シテ曰ク死諸葛
走生仲達亮政ヲ爲スニ私ナシ馬稷ノ敗ル流
涕シテ之ヲ斬リ其後ヲ卹ム李平廖立皆亮ニ廢
セラハ亮ノ喪ヲ聞テ皆歎息流涕シ病ヲ發シテ
死スルニ至ル蔣琬ヲ尚書令トシ國事ヲ總統セ
シム延熙二年魏主叡卒ス太子芳立ツ年八歲

八年、尚書董允卒。官者黃皓ヲ中常侍トス。
十二年、魏主芳高平陵ニ謁ス。曹爽等皆從ス。司馬懿太后ノ令ヲ以テ諸城門ヲ閉ス。爽力僭擬專權ノ罪ヲ奏ス。爽駕ヲ奉シテ宮ニ還ル。懿遂ニ爽及何晏等ヲ殺シ、其族ヲ夷ク。十四年、魏ノ太傅司馬懿卒ス。其子師自撫軍大將軍トナリ、尚書事ヲ錄ス。十五年、吳主亮建昌元年、吳主權卒ス。太子亮立ス。十六年、盜大將軍費禕ヲ殺ス。姜維事ノ用米數兵ヲ出シテ魏ヲ攻ム。十七年、魏主髦正魏元年、魏ノ司馬師其主芳ヲ廢シ、高貴郷公髦ヲ迎立ス。十

八年、魏ノ司馬師卒ス。師ノ弟昭自大將軍トナリ、尚書事ヲ錄ス。景耀元年、吳主休永安元年、吳ノ孫綝其主亮ヲ廢シ、瑯琊王休ヲ迎立ス。綝尋テ伏誅ス。三年、魏主煥景元元年、魏ノ司馬昭其主髦ヲ南門下ニ執ス。魏主威權ノ日ニ去ルヲ見テ、忿ニ勝ヘス。殿中ノ宿衛蒼頭ヲ率テ、鼓譟シテ出シ、昭ノ黨賈充入テ髦ト戰ス。成濟戈ヲ抽テ髦ヲ刺ス。車下ニ殞ク。司馬昭常道郷公璜ヲ迎立ス。名ヲ煥ト更ム。炎興元年、魏鄧艾鍾會ヲ遣テ兵ヲ將テ、入テ關口ニ寇ス。守將傅僉之ニ死ス。姜維戰敗シ、還テ劍閣ヲ

守此魏ノ司馬昭始テ相國晉公ト稱ス、鍾會劍閣
 ヲ攻メ克タス、鄧艾進ミテ陰平ニ至ル山谷高深
 ナリ艾擅ラ以テ自裏ミ推轉シテ下ル將士皆木
 ヲ攀チ崖ニ緣リ魚貫シテ進ム、諸葛瞻艾ト綿竹
 ニ拒戦シ敗績ス其子尚ト之ニ死ス、鄧艾成都ニ
 至ル、譙周降ラント請フ、此地王謀怒テ曰ク若理
 窮リカ屈セハ父子君臣同シク社稷ニ死セシ奈
 何ソ降ラレヤト、昭烈ノ廟ニ哭シ妻子ヲ殺レテ
 自殺ス、帝降ル、姜維等帝ノ命ヲ得テ亦降ル、
魏

照元年、吳主
魏撫車ヲ以テ鄧艾ヲ徵ス鍾會謀反

シテ伏誅ス、吳主休屠ス、烏程侯皓立ッ、

漢史一斑 卷一 畢

漢書卷一

文部省